報告

「神戸市文化芸術推進ビジョン」の策定について

１．目的

平成 29 年６月に施行された文化芸術基本法において、国は地方公共団体に対し、「地方文化芸術推進基本計画」の策定を努力義務として規定。本市においても、三宮再整備に合わせて新しい文化施設が整備されるなど節目を迎えたことから、「地方文化芸術推進基本計画」に当たる「神戸市文化芸術推進ビジョン」を策定する。

本ビジョンでは、今後 10 年度程度の文化芸術施策の目指す姿や基本的な方向性を示す。

２．期間

2021 年度から 2030 年度までの 10 年間とし、概ね５年程度で中間見直しを行う。

３．位置づけ

（１）文化芸術基本法第７条の２の規定に基づく「地方文化芸術推進基本計画」

（２）障害者による文化芸術活動の推進に関する法律第８条の規定に基づく「地方障害者文化芸術活動推進基本計画」

（３）本市の文化芸術施策の目指す姿や基本的な方向性を示す指針（中長期ビジョン）

４．神戸市文化芸術推進ビジョン策定までの動き

平成 30 年度	11 月	神戸市文化奨励賞受賞者アンケート
令和元年度	７月～８月	神戸市ネットモニターアンケート
	８月～２月	神戸市文化芸術推進ビジョン策定懇話会 （全体会４回、分科会２回）
	１月	芸術文化団体アンケート
	３月	文教こども委員会へ「神戸市文化芸術推進ビジョン（素案）」報告
令和２年度	５月	「神戸市文化芸術推進ビジョン（素案）」に対するパブリックコメント
	６月～７月	「神戸市 with コロナ対応戦略」策定に向けた意見募集
	８月～	with コロナ関連追記内容検討
	１月 29 日	「神戸市文化芸術推進ビジョン」の策定

５．神戸市文化芸術推進ビジョン

（１）概要（ 別紙１ のとおり）

（２）神戸市文化芸術推進ビジョン（別紙２ のとおり）

神戸市文化芸術推進ビジョン　概要

策定の背景

１．国の動き

国は平成29年６月に施行された文化芸術基本法において、地方公共団体に対し、各自治体の実情に応じた「地方文化芸術推進基本計画」の策定を努力義務として規定。

２．神戸市を取り巻く現状と課題

（１）阪神・淡路大震災からの復興に充てた四半世紀
都心三宮再整備や駅前空間リノベーションに合わせて整備予定の新たな文化芸術創造発信拠点を活かして、まちなかに「わくわく感」や「非日常感」を創出し、「選ばれる街」としての魅力を高めていく必要がある。

（２）人口減少・超高齢社会の進展
次世代の担い手や支え手を増やすとともに、人の生きがい創出や健康寿命の延伸に文化芸術の力を積極的に活かしていく必要がある。

（３）大型国際スポーツイベント等の開催
東京オリンピック・パラリンピック競技大会や世界パラ陸上競技選手権大会等、大型国際イベントが続くことから、世界に神戸の取り組みを伝える絶好の機会が到来する。

（４）情報発信技術の急速な発展
急速に進化する情報通信技術に対応し、自らが発信源となり、より多くの人たちに神戸の魅力や取り組みを伝えられるよう、効果的な情報発信方法を考える必要がある。

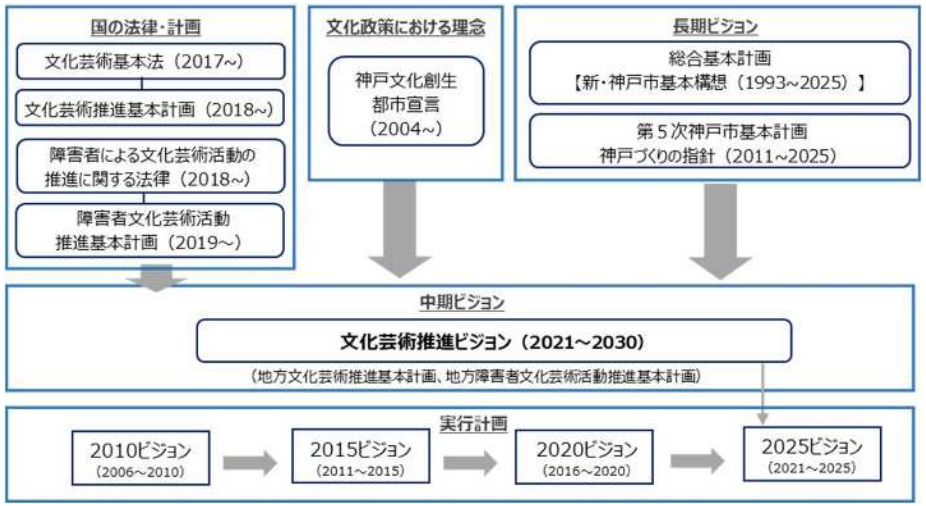
（５）新型コロナウイルスの出現と感染拡大
新型コロナウイルスの出現により、世界中の風景は一変、新たな生活様式とともに、感染拡大防止及び社会経済活動の維持を両立し、withコロナ、ポスト・コロナを見据えた取り組みを考える必要がある。

ビジョンの位置づけ

・「神戸市文化芸術推進ビジョン」は、具体的な事業計画ではなく、全市的な長期ビジョンの趣旨や方向性を踏まえ、今後10年程度の神戸の文化芸術施策が目指す姿や基本的な方向性を示す指針として策定する。

・令和２年度に策定予定の「神戸2025ビジョン」には本ビジョンの内容を反映し、全市的な整合性を図るとともに、具体的な取り組みを推進していく。

・本ビジョンは「文化芸術基本法」第７条の２及び「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」第８条において、国が地方公共団体に対し策定を努力義務として規定している「地方文化芸術推進基本計画」 及び「地方障害者文化芸術活動推進基本計画」としても位置づける。



神戸市文化芸術推進ビジョン　概要

KOBE2050　～30年後の未来のために、これから10年で目指すこと～

目指すべき５つの将来像	基本方針
1 暮らしを彩る	（１）質の高い文化芸術から誰もが気軽に触れられる文化芸術まで、ホールや劇場だけでなく様々な場所で楽しめる機会を創出します。 （２）年齢や障がいの有無、経済的状況に関わらず、子どもから大人まで、市民一人ひとりが生涯にわたって文化芸術に触れ、親しみ、学び続けられる環境づくりを進めます。 （３）これまでのメディアのみならず、自らも発信拠点として、多様なネットワーク、ICT等を駆使した動画を含むあらゆる表現による文化芸術情報の発信力を強化します。
2 次世代を育てる	（１）子どもの頃からホンモノの文化芸術に触れる機会を増やし、次世代の文化芸術の担い手や支え手を育てます。 （２）若手アーティストやクリエイターが神戸で活動に没頭し、定住できる安定した創造環境を整備します。 （３）世界に神戸の文化芸術を発信できる若手アーティストやクリエイターの活動を支援します。
3 変化を楽しむ	（１）文化芸術の力をまちづくりの原動力とするため、経済、教育、福祉、観光、国際交流など他の分野との積極的な連携を図ります。 （２）新しいことにチャレンジしやすい仕組みと多様性を受け入れる環境をつくります。 （３）新神戸文化ホールなど、新たな価値を創造する文化芸術創造発信拠点を整備し、活用していきます。
4 自然を活かす	（１）豊かな自然や街中の豊富な文化資源を活かし、エリアごとに異なる地域の魅力・個性に磨きをかけます。 （２）「地域の資源×アート」による地域のブランディングを図り、新しい神戸のイメージを醸成します。 （３）神戸の歴史を物語る文化財や伝統文化、郷土芸能の保存・継承・活用を進めます。
5 豊かに繋がる	（１）市民、企業、芸術家、文化団体、学校、行政等が緩やかに繋がるネットワークを形成します。 （２）各主体それぞれが、強みを生かし「自分にできること」で文化芸術活動を下支えするという意識を醸成し、アーティストやクリエイターの活動基盤づくりを進めます。 （３）文化芸術をコミュニケーションツールとして、年齢・性別・障がいの有無・国籍などの違いを超えた交流が生まれる機会を創出します。

別紙２

神戸市文化芸術推進ビジョン

神戸市

令和３年１月

神戸市文化芸術推進ビジョンの策定にあたって

神戸は 26 年前、阪神・淡路大震災を経験しました。

あの日、人々は自分の「できること」を持ち寄り、互いに扶け合い、励まし合いながら、困難な時期を共に乗り越えました。一人ひとりの自助努力、自立の精神は震災の中から生まれた大きな財産であり、まさに神戸のオリジンと言えます。

日本は人口減少社会に突入しています。「誰かがやってくれる」のを待っているだけでは、今後、神戸が日本の中で選ばれる都市として生き残っていくことは難しいでしょう。個人や団体といった違いや、年齢・性別・国籍・障がいの有無に関わらず、「私はこれができる」「私はこれがしたい」といった一人ひとりの自発的なムーブメントこそが、神戸を面白くし魅力あるまちにする原動力です。

神戸は、明治の開港以来、常に海外からの多彩な文化や新しい気風を取り入れながら、個性豊かな発展を遂げてきました。新しい「令和」の時代にも、先人が築き上げてきた歴史や営みを受け継ぎながら、海と山、美しい街並み、田園風景、そこに暮らす人々など、神戸が持つ多様な資産を最大限活かし、まちの質・くらしの質を向上させていかなければなりません。

2020 年、新型コロナウイルスの出現により、世界中の風景は一変しました。文化芸術活動も例外ではなく、新しい生活様式への対応が求められる中、様々な活動が制限されるなど、大きな影響が及んでいます。しかし、新しい生活様式は、デジタルでの動画配信などいずれ迎える時代を先取りしたものになっているものもあります。このような「with コロナ時代」においても文化芸術の灯を絶やしてはなりません。変化に柔軟に対応し、文化芸術活動を維持・継続していくことは、ポスト・コロナの私たちの豊かな生活を守ることにもつながります。

「自発性」と「多様性」、そして「柔軟性」を起点に置き、前向きな市民活動を行政や企業が全力で応援する。30 年後の神戸のために、これからの 10 年、神戸に住み、働き、集うすべての人々が、それぞれに自らできること実践していくため、この文化芸術推進ビジョンを策定します。

最後になりましたが、本ビジョンの策定にあたり、熱心にご議論いただいた「神戸市文化芸術推進ビジョン策定懇話会」委員の皆様、そしてアンケート調査等で貴重なご意見をいただいた市民の皆様に心から感謝を申し上げます。

ひさもと　　きぞう

神戸市長　　久元喜造

神戸市文化芸術推進ビジョン策定懇話会　会長メッセージ

KOBE2050

～30 年後の未来のために、これから 10 年で目指すこと～

テクノロジーの急速な発展は私達の生活のどこを変えてどこを変えないのでしょうか？きっと自動運転は当たり前になっているはずですし、紙幣や硬貨は博物館で観るものになっているでしょう。神戸は水素エネルギーのスマートシティーになり、宇宙の衛星軌道上にはエネルギー施設がいくつも並んでいるかもしれません。ひとつ確かな事は、温暖化によって気候変動はより深刻になり、ひょっとすると南海トラフの地震が起こっているかもしれません。奇しくも今回の新型コロナウイルス問題は、日本がデジタル社会で後発かつ脆弱であることを明らかにしました。しかし、この問題を克服すれば、例えば神戸ではオンライン環境が、海と山と豊かな自然というオフラインを包み込む、新しい豊かさを体現するチャンスが訪れると私は考えます。そのような 2050 年の文化はどんな姿をしているのでしょう。

30 年前に現代の暮らしを想像することは難しかったように、今から 30 年後の未来を想像することは困難です。人々は AR（※１）や VR(※２)でしか情報を入力しなくなっているのかもしれませんし、情報は脳に直接入力されているかもしれません。しかし確かな事があります。そんな時代になっても私達の体はまったく今と変わらず、美味しい神戸ビーフや瀬戸内海の魚に舌鼓を打つ生活を楽しむでしょうし、筋肉はすぐに衰えるのでジムでトレーニングをしなければならず、週末のアウトドアライフを楽しむ人々は今より増えているかもしれません。いかにテクノロジーが進化しても、神戸ビーフ味の宇宙食を誰も食べたいとは思わないはずなのです。

この懇話会では、今から約 30 年後の「西暦 2050 年」という先の未来を見据え、挑戦する若者たちの文化スタートアップを支援する事を大きな目標に掲げました。実験性を尊び、まだ見えない何かに向かって文化の概念を再構築する野望を持った若者に集まってもらおうではありませんか。

行政・企業・市民が一丸となって「やる気のある人」を応援するまち KOBE。世界中から若いチャレンジャーが数多く集うまち KOBE。そんな 30 年後の KOBE の実現のため、まずこれから 10 年、神戸に住み、働き、集うすべての人々が自らできることを考え実践し、共に歩むための指針として、この文化芸術推進ビジョンが広く共有されることを願ってやみません。

※１　Augmented Reality　拡張現実　　※２　Virtual Reality（仮想現実）

神戸市文化芸術推進ビジョン策定懇話会

会長　椿（つばき）　昇（のぼる）

目 次

Ⅰ 神戸市文化芸術推進ビジョンについて …… 1
1．策定趣旨 …… 1

Ⅱ 策定の背景 …… 2
1．国の動き …… 2
2．神戸市を取り巻く現状と課題 …… 4
（1）阪神・淡路大震災からの復興に充てた四半世紀 …… 4
（2）人口減少・超高齢社会の進展 …… 4
（3）大型国際スポーツイベント等の開催 …… 6
（4）情報通信技術の急速な発展 …… 6
（5）新型コロナウイルスの出現と感染拡大 …… 6

Ⅲ ビジョンの位置づけ …… 7
1．市の計画 …… 7
2．これまでの取り組み …… 7
3．ビジョンの位置づけ …… 8
4．ビジョンの期間 …… 8

Ⅳ 基本方針 …… 9
将来像1 暮らしを彩る …… 9
将来像2 次世代を育てる …… 10
将来像3 変化を楽しむ …… 11
将来像4 自然を活かす …… 12
将来像5 豊かに繋がる …… 13

Ⅴ 神戸市文化芸術推進ビジョン策定懇話会 検討状況 …… 14
1．第1回・第2回全体会 …… 14
2．第3回全体会 …… 16
3．第4回全体会 …… 17

Ⅵ 市民アンケート等調査結果 …… 21
1．神戸市文化奨励賞受賞者アンケート …… 21
2．神戸市ネットモニターアンケート …… 26
3．芸術文化団体アンケート …… 36
4．「神戸市 with コロナ対応戦略」策定に向けた意見募集 …… 40

Ⅶ 参考 …… 43
1．神戸市文化芸術推進ビジョン策定までの動き …… 43
2．神戸市文化芸術推進ビジョン策定懇話会 委員名簿 …… 44
3．神戸市文化芸術推進ビジョン策定懇話会 開催要綱 …… 45
4．神戸市文化創生都市宣言 …… 46

Ⅰ　神戸市文化芸術推進ビジョンについて

１．策定趣旨

阪神・淡路大震災から 26 年目を迎えた神戸は、これまで築き上げてきた歴史や営みを受け継ぎながら新たなステージに立っています。しかしながら、社会経済情勢の急速な変化、グローバル化、情報化社会の進展、そして新型コロナウイルスの感染拡大などにより、人々の価値観や生活は大きく変化しています。また、都心三宮をはじめ、市内各地域の駅周辺のリノベーションにより街も大きく変わろうとしています。

このような中、神戸が、これからも魅力的で、持続可能な都市として発展していくためには、市民が日常的に芸術・文化に触れることができ、神戸の街での生活を楽しむことが重要です。また、その魅力を国内外に発信し、世界中の人々が神戸に集うことで、地域や暮らしの中で世界の文化と交流し、多様な価値観を認め合うことができます。このような神戸を創るため、文化芸術によるまちづくりを進めていかなければなりません。

神戸には、古来より開かれた港のある雄大な海と自然豊かな六甲山麓があり、それらに囲まれた市街地では、海や山の恵みなどにより地域ごとの文化資産があります。六甲山麓の北側には、自然に囲まれた豊かな農村地域も広がっています。また、旧居留地や異人館、茅葺民家をはじめ歴史的資産も多く残っています。そして神戸にかかわる人々。これら神戸が持つあらゆる資産を最大限活かして、30 年後の神戸のために、これからの 10 年、神戸に住み、働き、集うすべての人々が自らできることを考えるために、この文化芸術推進ビジョンを策定します。

Ⅱ　策定の背景

１．国の動き

（１）文化芸術基本法

平成 29（2017）年６月、国は文化芸術振興基本法の一部を改正し、法律名を「文化芸術基本法」に改めました。

今回の改正は、少子高齢化・グローバル化の進展など社会の状況が著しく変化する中で、観光やまちづくり、国際交流等幅広い関連分野との連携を視野に入れた総合的な文化芸術政策の展開が、より一層求められるようになってきたことを背景に、文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ、文化芸術そのものの振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野における施策を法の範囲に取り込むとともに、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用しようとする趣旨の元、行われたものです。

同法の規定により、国は文化芸術に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、「文化芸術推進基本計画」を策定しました。

また、同法では国の基本計画を参考にしながら、地方公共団体にも各地の実情に応じた「地方文化芸術推進基本計画」を策定する努力義務を規定しています。

参 考　文化芸術基本法　第７条の２　（抜粋）

都道府県及び市（特別区を含む。第三十七条において同じ。）町村の教育委員会（地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和三十一年法律第百六十二号）第二十三条第一項の条例の定めるところによりその長が文化に関する事務（文化財の保護に関する事務を除く。）を管理し、及び執行することとされた地方公共団体（次項において「特定地方公共団体」という。）にあっては、その長）は、文化芸術推進基本計画を参酌して、その地方の実情に即した文化芸術の推進に関する計画（次項及び第三十七条において「地方文化芸術推進基本計画」という。）を定めるよう努めるものとする。

（２）障害者による文化芸術活動の推進に関する法律

平成30（2018）年６月、「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律（平成30年法律第47号）」が公布、施行されました。

この法律は、文化芸術基本法及び障害者基本法の基本的な理念にのっとり、障害者による文化芸術活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、文化芸術活動を通じた障害者の個性と能力の発揮及び社会参加の促進を図ることを目的とするものです。

同法の規定により、国は「障害者文化芸術活動推進基本計画」を策定しました。

また、同法では国の基本計画を参考にしながら、地方公共団体にも各地の実情に応じた「地方障害者文化芸術活動推進基本計画」を策定する努力義務を規定しています。

参 考　障害者による文化芸術活動の推進に関する法律　第８条

地方公共団体は、基本計画を勘案して、当該地方公共団体における障害者による文化芸術活動の推進に関する計画を定めるよう努めなければならない。

２　地方公共団体は、前項の計画を定め、又はこれを変更したときは、遅滞なく、これを公表するよう努めるものとする。

２．神戸市を取り巻く現状と課題

（１）阪神・淡路大震災からの復興に充てた四半世紀

阪神・淡路大震災から26年、神戸は復興に至る過程で被災された方々の日常生活や財政再建への対応を優先する必要がありました。このため、新たな政策課題への対応や非日常性の創出に手をつける余裕がなく、相対的に都市としての魅力が低下したことは否めません。

令和２（2020）年から本格化した三宮の再整備やターミナル駅前空間リノベーションに合わせて、新神戸文化ホールを始め、新たな文化芸術創造発信拠点も整備されます。この新拠点を活かしてまちの賑わいを創出するとともに、まちなかに「わくわく感」や「非日常性」を生み出し、質の高い暮らしを体感できるまち、「選ばれるまち」として都市の魅力をさらに高めていく必要があります。

（２）人口減少・超高齢社会の進展

神戸市の人口は、令和２（2020） 年10月1日時点で、151万6,638人となりました。総人口は平成24（2012）年に減少に転じて以来、年々減少しており、高齢化も進んでいます。

また、令和元（2019）年度中の人口動態は、4,366 人減少（自然増減 5,645 人減少、社会増減 1,279 人増加）となり、人口減少数が全国で３番目に大きい減少幅となりました。

人口減少とそれに伴う高齢化は、地域コミュニティの衰退やまちの活力低下など、市民の暮らしを支える地域の社会・経済システムの維持・存続に大きな負の影響を及ぼす可能性があります。文化芸術の分野でも、担い手や支え手、後継者不足や、歴史ある伝統文化財・行事の消失の問題点が指摘されています。

神戸市がこれからも豊かな多様性を保ち、持続可能な都市であるためには、全ての市民が年を重ねても安心して暮らしたいと思えるまちである必要があります。そのためには、若者に選ばれるまちとして次世代の担い手・支え手を増やすとともに、人々の生きがい創出や健康寿命の延伸等に文化芸術の力を積極的に活かしていく必要があります。

参 考　神戸市ネットモニターアンケート　集計結果

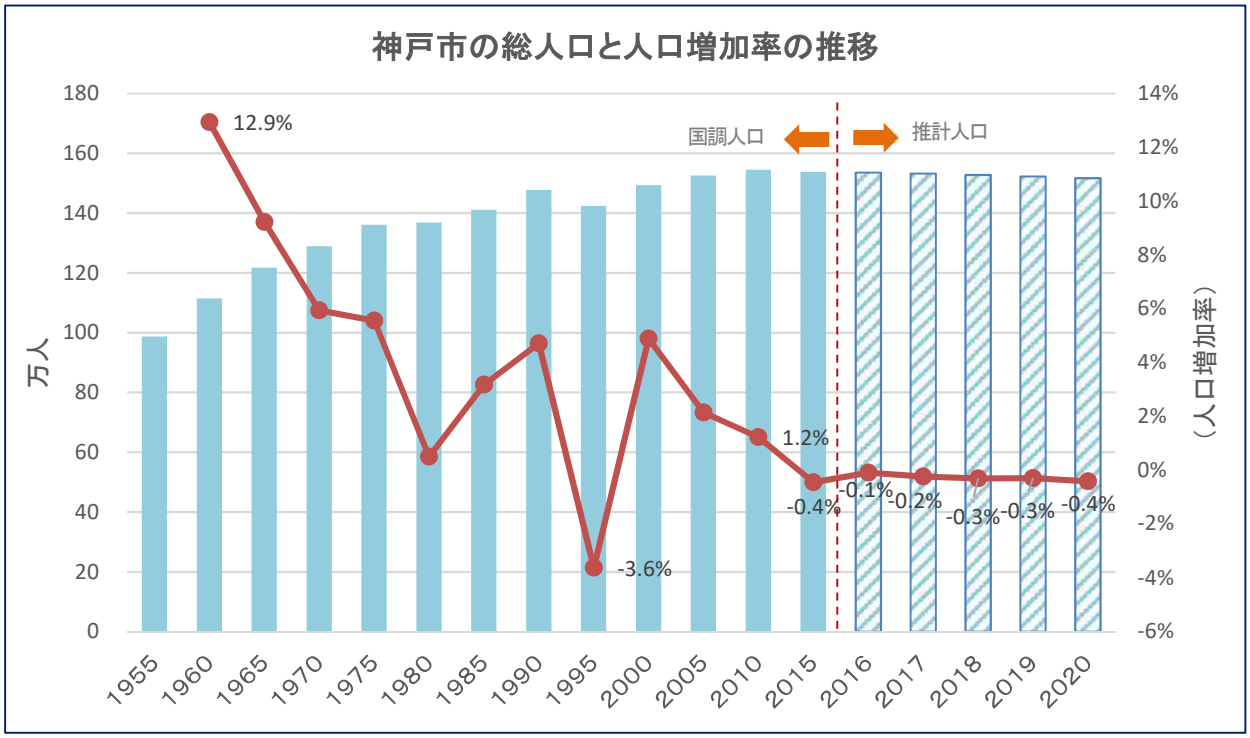
問６．神戸の文化的な環境が良くなることにより、どのような効果が現れることを期待しますか。（複数回答可）

１位　市民が生きがいや楽しみを見いだせる（56.9%）

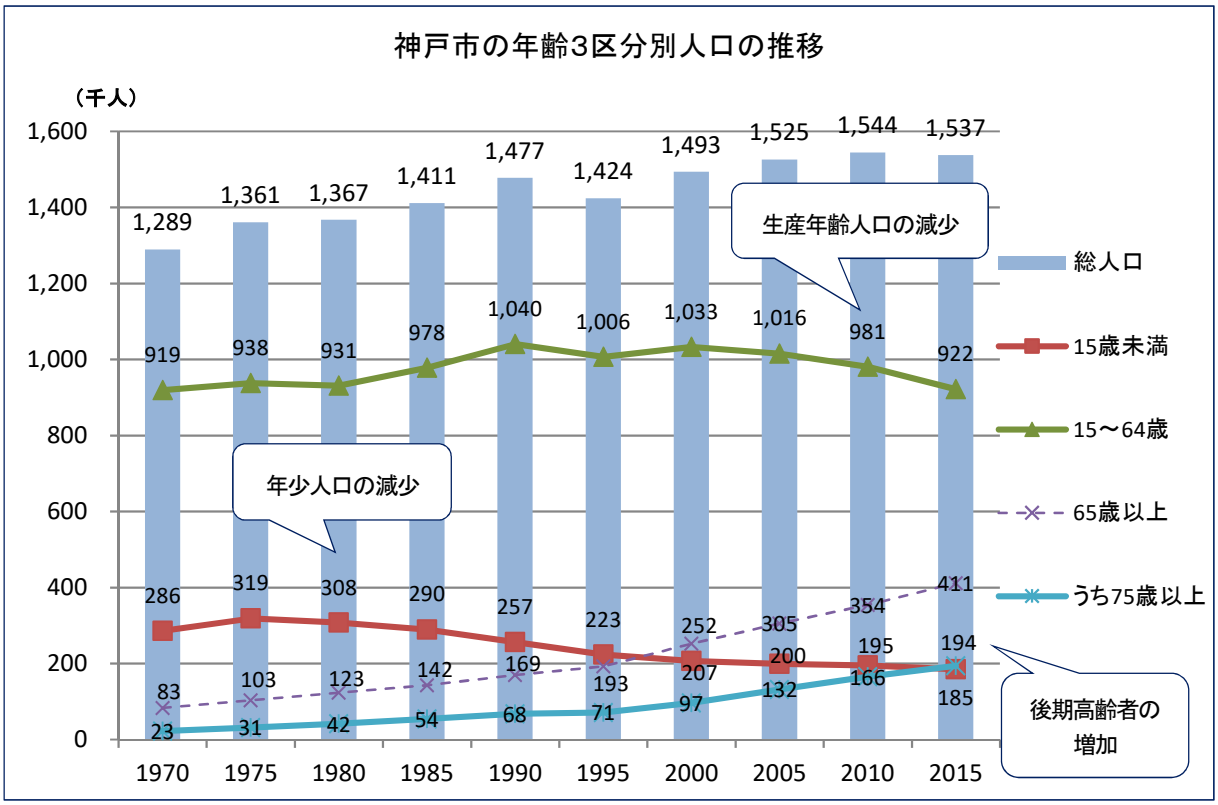
２位　こどもが心豊かに成長する（52.2%）

問８．自由意見（抜粋）

・芸術文化を生かして認知症予防や健康維持につなげてほしい。



出典：国勢調査（2015 年まで）・神戸市推計人口（2015 年以降各年 10 月 1 日現在）



出典：国勢調査

（３）大型国際スポーツイベント等の開催

令和３（2021）年には東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。東京オリンピック・パラリンピック競技大会はスポーツの祭典であるとともに文化の祭典でもあり、同大会は我が国の文化芸術の価値を世界に発信する大きな機会となります。

さらに、令和４（2022）年には世界パラ陸上競技選手権大会、ワールドマスターズゲームズ2021 関西大会、令和７（2025）年には大阪・関西万博が開催されるなど大型の国際イベントが続くことから、神戸にも注目が集まることで、世界に対しても神戸の取り組みをアピールする機会が生まれます。

（４）情報通信技術の急速な発展

情報通信技術の急速な発展と普及は、情報の受信・発信を容易にし、私たちの生活に大きな利便性をもたらしました。また、映像や動画などデジタル技術の発達は、多様な文化芸術活動の展開や創造を可能にするものとして期待されています。

これまでは、民放テレビ局を始めマスメディアが集中する大阪と比較すると、神戸市における情報発信機会の少なさは否定できませんでした。これからは、自らが発信源となり、より多くの人たちに神戸の魅力や取り組みを伝えられるよう、世代ごとに適切で効果的な情報発信方法を考える必要があります。

参 考　神戸市ネットモニターアンケート　集計結果

問３　芸術文化活動を鑑賞したり始めたりする情報やきっかけをどこから得ましたか。

１位　ニュースや新聞をみて（48.4%）

２位　インターネットを利用していて（YouTube・ブログなど）　（36.1%）

問８．自由意見（抜粋）

・広報が悪い気がする。せっかく良いイベントを開催していても知らなかったという事が多々ある。

（５）新型コロナウイルスの出現と感染拡大

令和２（2020）年、新型コロナウイルスの出現は、世界中の風景を一変させました。日本国内においては、１月に初めて感染が確認されて以来、本市を含む日本全国にも感染が拡大し、外出や営業の自粛、学校園の臨時休業等により、地域経済や住民生活、子どもたちの教育環境などに甚大な影響が生じました。

新型コロナウイルス感染症は、未曽有の感染症ではありますが、人類が経験した過去の歴史に学びつつ進化するテクノロジーを取り入れながら、新たな生活様式とともに、感染拡大防止及び社会経済活動の維持を両立し、現在進行形の with コロナに加えて、ポスト・コロナを見据えた取り組みを考えていく必要があります。

Ⅲ ビジョンの位置づけ

１． 市の計画

本市は、長期的なまちづくりの方向性を示した「神戸市総合基本計画（新・神戸市基本構想）」（1993～2025）、「第５次神戸市基本計画（神戸づくりの指針）」（2011～2025）を実現するため、全市的な５か年の実行計画「神戸 2020 ビジョン」（2016～2020）を策定しました。急激な人口減少や少子高齢化などの諸問題を克服するため、「若者に選ばれるまち＋誰もが活躍するまち」をテーマに設定し、若者をターゲットの中心として掲げるとともに、高齢者や障害者、外国人の方々など、誰もが安心して暮らし、活躍できるまちを目指すことを明確にしています。

また都心三宮や駅前空間の再整備計画が本格的に始動する動きに合わせて、神戸の中心地に新たな文化芸術創造拠点が整備されます。令和２（2020）年度には、新たな 5 か年計画「神戸 2025 ビジョン」の策定を予定しています。

２． これまでの取り組み

本市では震災 10 年を機に、まちの魅力を再度見つめ直し、文化を活かしてこれからの神戸をどのように創っていくのかを、市民とともに考える基本理念として、平成 16（2004）年に「神戸文化創生都市宣言」を行いました。これは文化の担い手の主役は、市民であるという認識のもと、芸術家等の自主性の尊重を前提として、〝神戸らしさ〟を活かしながら、地域文化を育て、市民生活に愉しみと潤いを与えつつ、人が集まり、魅力あふれる文化のまちを実現していくことを宣言したものです。

この宣言の考え方を反映する形で、平成 17 年（2005）度には、2010 年度（平成 22 年度）を目標年次とする全市の中期計画「神戸 2010 ビジョン」のアクションプランの一つとして、「文化創生都市推進プラン」を策定し、平成 18～22 年度にかけて神戸ビエンナーレをはじめとする様々な事業を展開してきました。

さらに平成 23～28 年度は、前述の全市中期計画「神戸 2015 ビジョン」、平成 28 年度～令和２年度は「神戸 2020 ビジョン」の実行計画の一つとして、具体的な事業展開を進めています。

神戸ビエンナーレ

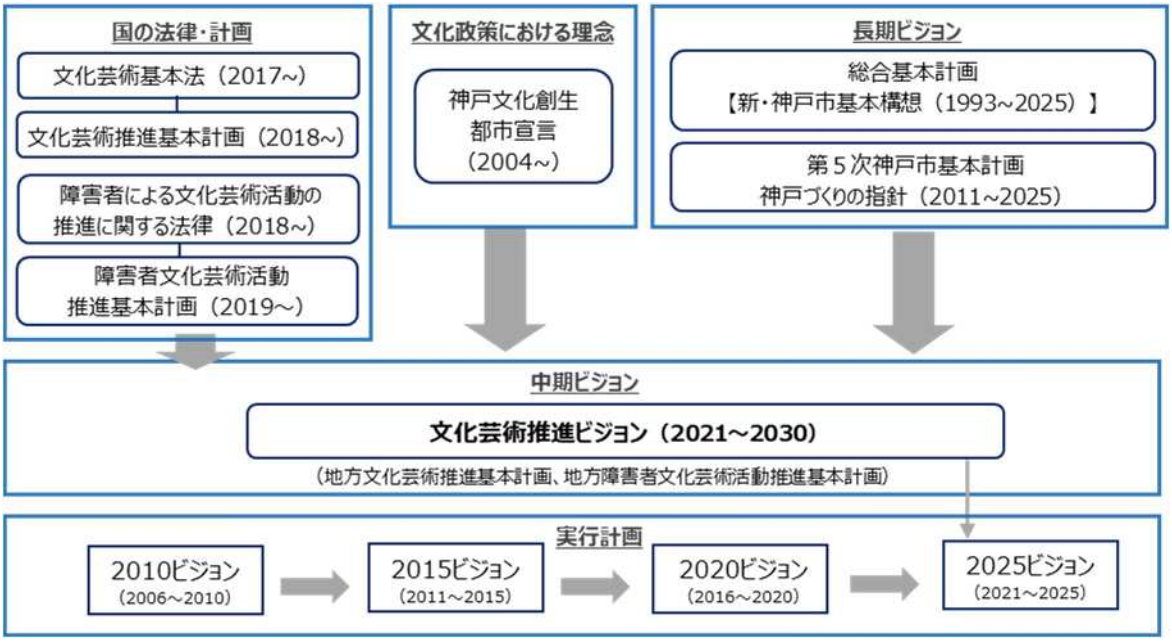
フルート大人数アンサンブル

３．ビジョンの位置づけ

「神戸市文化芸術推進ビジョン」は、具体的な事業計画ではなく、全市的な長期ビジョンの趣旨や方向性を踏まえ、本市の文化芸術施策の目指す姿や基本的な方向性を示す指針です。

令和２（2020）年度に策定する「神戸 2025 ビジョン」には本ビジョンの内容を反映し、全市的な整合性を図るとともに、具体的な取り組みを推進していきます。

また本ビジョンは、「文化芸術基本法」第７条の２及び「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」第８条において、国が策定を地方公共団体の努力義務として規定する「地方文化芸術推進基本計画」「地方障害者文化芸術活動推進基本計画」に位置付けます。



４．ビジョンの期間

2021 年度（令和３年度）から 2030 年度（令和 12 年度）までの 10 年間とし、概ね５年程度で中間見直しを行います。

Ⅳ 基本方針

将来像１ 暮らしを彩る

「芸術」と言われると敷居が高くて近寄りがたかったり、できれば近寄りたくなかったりと・・。普段の暮らしからは遠ざけたくなってしまうというのが大方の本音ではないでしょうか。

風光明媚で海と山を有し、港町として発展してきた神戸は「芸術」といういかめしい響きよりも、暮らしを楽しむ「クオリティ・オブ・ライフ」を実現させるための「アート」とは何かを考えるのがふさわしいのかもしれません。

文化は生活に寄り添うもの、そんな想いのもと、暮らしの中に「アート」が自然に溶け込み、私たちの日常生活が豊かに彩られている、そんなまちを目指します。

基本方針

（１）質の高い文化芸術から誰もが気軽に触れられる文化芸術まで、ホールや劇場だけでなく様々な場所で楽しめる機会を創出します。

（２）年齢や障がいの有無、経済的状況に関わらず、子どもから大人まで、市民一人ひとりが生涯にわたって文化芸術に触れ、親しみ、学び続けられる環境づくりを進めます。

（３）これまでのメディアのみならず、自らも発信拠点として、多様なネットワーク、ICT 等を駆使した動画を含むあらゆる表現による文化芸術情報の発信力を強化します。

将来像を具現化するアイデア

- ストリートピアノの展開のような、まちなかで絵を描いたり演奏ができる文化芸術に親しめる環境の整備
- 都心を中心とした上質なサウンドスケープ・ライブパフォーマンス空間の整備
- 神戸産の食材を用いた飲食やステージ提供などまちなかの公開空地の活用
- ホールや博物館・美術館・図書館と各区文化センターなどの連携による身近な文化芸術鑑賞環境の整備
- 神戸の文化芸術シーンの発信拠点となるスタジオの整備による番組の制作及び訴求したい層に向けた的確な配信
- 「with コロナ」「ポスト・コロナ」時代に見合った、あらゆる場所で視聴できるオンライン配信と劇場でのライブ観覧の双方を可能とする配信・課金システムの整備

将来像２　次世代を育てる

アーティストやクリエイター。どこか遠い存在に思っていませんか？
六甲山からの夜景が綺麗に撮れたので投稿してみよう、お気に入りの本のレビューを載せてみよう。街角のストリートピアノを弾いてみよう。インターネットやＳＮＳを通じて全世界の誰とでも繋がることのできる今、日常の何気ない行為を通して、誰でも文化芸術の担い手・受け手になることができます。
小さな頃からアートに親しむことで、何か新しいことにチャレンジしたくなる、活動に没頭したくなる、そのような熱意のある若者たちの主体的な活動をまち全体が応援し、チャレンジ精神に満ちた熱い人や尖った人がどんどん集まってくる、そんなまちを目指します。

基本方針

（１）子どもの頃からホンモノの文化芸術に触れる機会を増やし、次世代の文化芸術の担い手や支え手を育てます。
（２）若手アーティストやクリエイターが神戸で活動に没頭し、定住できる安定した創造環境を整備します。
（３）世界に神戸の文化芸術を発信できる若手アーティストやクリエイターの活動を支援します。

将来像を具現化するアイデア

- 子ども達に伝統文化から音楽まで多様な文化芸術を体験として伝えるためのアウトリーチの充実
- 身近な環境で多様な活字文化に触れることのできる子どものための図書館の整備
- 文化芸術がプロダクトデザインやスタートアップ等と結びつく仕組みづくり
- 遊休施設や地域特性に応じたアーティスト・イン・レジデンスの整備
- 若手アーティスト・クリエイターを対象とした事業コンペの実施・支援
- 世界的な活躍が期待される神戸出身の若手アーティストの顕彰・支援

将来像３　変化を楽しむ

神戸の良いところは、海・山・街、そして人。古くは平清盛の時代から、海を越えて入ってきた「ヒト・モノ・コト」を寛容に受け入れ、いろんなライフスタイルとして取り入れてきました。

これから５Ｇやキャッシュレス、自動運転や人工知能などテクノロジーの進化により、私たちの生活は大きく変わっていくでしょう。また、新型コロナウイルスの影響により、従来のやり方が通用しなくなっている場面も多々あります。しかし、恐れることはありません。神戸には変化を恐れず新しいことにチャレンジし、自分のものとするチャレンジ精神、「進取の気風」が受け継がれています。

大きなピンチをチャンスと捉え、変化を楽しむ人々の想いが、また新たな文化を創り出す、そんなまちを目指します。

基本方針

（１）文化芸術の力をまちづくりの原動力とするため、経済、教育、福祉、観光、国際交流など他の分野との積極的な連携を図ります。

（２）新しいことにチャレンジしやすい仕組みと多様性を受け入れる環境をつくります。

（３）新神戸文化ホールなど、新たな価値を創造する文化芸術創造発信拠点を整備し、活用していきます。

将来像を具現化するアイデア

- 様々な分野の課題解決や強みの拡充のために文化芸術が連携できる仕組みづくり
- 駅前リノベーション等の整備事業と連携した、ポイントとなる場所でのパフォーマンス空間の整備
- 博物館等がより市民に開かれた場所であるための、新たな施設活用方法の検討およびデジタルテクノロジー導入による現代化
- 劇場映像技術の普及に貢献する「ダンス×映像」のコラボレーションパフォーマンスや、新たな映像表現を育むコンペティション等の実施
- 感染症予防対策（換気機能、非接触型入場システムなど）やユニバーサルデザインに配慮した最新技術を導入した劇場空間の整備
- デジタルを中心とした技術革新に柔軟に対応できる劇場空間の整備
- 神戸市室内管弦楽団や神戸市混声合唱団などプロの楽団の変革。また楽団を活用したシティプロモーションの推進や神戸ブランドの向上

将来像４	自然を活かす

山が緑とすれば、海は青、神戸ビーフは赤。有馬温泉は金泉・銀泉。モノ・コトに「色・個性」があるように、神戸には、海・山・温泉・酒蔵・茅葺民家の農村部、世界と神戸港など、色とりどりの個性にあふれた地域ごとの歴史や魅力が満載です。

温暖な気候に豊かな自然と便利な都市機能。暮らしてよし、観光してよし、１日訪れただけでは伝えきれない神戸の魅力をもっとたくさんの人に知ってほしい。

技術革新や変化があろうとも自然や伝統文化を受け継ぎ、with コロナ時代に都会の密を避けた新しい働き方や暮らし方が注目される中、豊かな資源を活かしてまちの魅力に磨きをかけ、人に選ばれる、そんなまちを目指します。

基本方針

（１）豊かな自然や街中の豊富な文化資源を活かし、エリアごとに異なる地域の魅力・個性に磨きをかけます。

（２）「地域の資源×アート」による地域のブランディングを図り、新しい神戸のイメージを醸成します。

（３）神戸の歴史を物語る文化財や伝統文化、郷土芸能の保存・継承・活用を進めます。

将来像を具現化するアイデア

- 市内をエリアごとにディレクションするアートディレクターの導入
- 豊かな自然とアートの調和による六甲山のブランディングの推進
- 暮らしの魅力を再認識するための、「六甲山」や「旧居留地」、「パン」など神戸の特徴を題材とした物語制作コンテストの実施
- 茅葺古民家に滞在し、日本の伝統文化・芸能等の活動を経験できるような積極的な文化面での高付加価値化の展開
- 古くから地域で守られてきた歴史遺産の掘り起こしと積極的な発信
- 文化財や伝統文化、郷土芸能などを市民全体の財産として支える基盤づくり
- インバウンドに頼りすぎない内需を喚起するエコシステムの構築

将来像５	豊かに繋がる

「次の休日は美術館に行こう」「あそこでやっているストリートライブ、ちょっと聴いてみようかな」そんな何気ない行動が実はアーティストやクリエイターを支えています。

どんなに小さくてもいい、みんなで知恵や時間やお金、できることを出し合って役割分担をすることで、誰かの想いが実現されるとともに、それぞれの居場所が生まれます。

市民・企業・アーティスト・行政等それぞれが「自分にできること」で社会が豊かに繋がる、そんなまちを目指します。

基本方針

（１）市民、企業、芸術家、文化団体、学校、行政等が緩やかに繋がるネットワークを形成します。

（２）各主体それぞれが、強みを生かし「自分にできること」で文化芸術活動を下支えするという意識を醸成し、アーティストやクリエイターの活動基盤づくりを進めます。

（３）文化芸術をコミュニケーションツールとして、年齢・性別・障がいの有無・国籍などの違いを超えた交流が生まれる機会を創出します。

将来像を具現化するアイデア

- アーツカウンシルの研究とともに、アーティストと市民・企業が交わり事業実現に繋げるアートプラットフォームの場づくり
- アートと社会（市民・地域・産業）を繋ぐ人材の発掘・育成
- 高校・大学など教育機関の横の連携の強化
- 神戸市独自のアート・クラウドファンディングの立ち上げやふるさと納税を融合させた新たな資金獲得の仕組みの開発
- 地元経済界が神戸の文化芸術を支える仕組みづくり（神戸文化マザーポートクラブ、ネーミングライツ、公演チケット等の購入による地元アーティストの支援等）
- 寄付文化の醸成につなげるため、募金への協力などで誰かを応援する幼少期からの取り組み
- コロナ禍のような非常時においても文化芸術活動を維持・継続するための手法や知識、情報を共有できる仕組みづくり

V 神戸市文化芸術推進ビジョン策定懇話会 検討状況

文化ビジョンの策定にあたっては、専門的な見地から意見をいただくため、経済界や文化芸術関係者、学識経験者、市民代表（議会）といった様々な分野の専門家 22 名により構成された「神戸市文化芸術推進ビジョン策定懇話会（以下「懇話会」という。）」を立ち上げ、４回の全体会と２回の分科会を開催しました。

	開催日	内容・議題等
第１回全体会	令和元年 8月28日	神戸市における文化芸術の目指すべき姿等について意見交換
第２回全体会	令和元年 10月30日	
第１回分科会	令和元年 11月15日	ビジョン中間報告 取りまとめ
第３回全体会	令和元年 12月18日	ワークショップ①
第４回全体会	令和２年１月31日	ワークショップ②
第２回分科会	令和２年２月13日	ビジョン素案 取りまとめ

１．第１回・第２回全体会

第１回・第２回全体会では、ビジョン策定の進め方や神戸市における文化芸術の目指すべき姿について、広く意見を交わしました。

第１回全体会 発言要旨

- 文化芸術について、人を育てる・未来を見据えるという観点を主軸に置き、話をしていきたい。
- 文化芸術というつかみどころのない言葉を、具現化した「ことば」で的を作ることが必要。
- 核となることは具体的にして、この会で考えていかないといけないのではないか。
- 阪神・淡路大震災後、神戸市民はほとんど人が入れかわっているが、進取の気風と国際性は守っていきたいという思いがある。
- 繋ぐ人材や今の神戸を発信できるアーティストやクリエイターをいかに神戸に定着させるかが大事。
- 横のつながりがないため上手くいかないという声があるが、ハイもローもオペラでもロックでも何でも食べる雑食になればいい。排他的にならない、雑食文化を神戸で育てると楽しいし、神戸らしい。
- 若い世代は自ら YouTube 等ネットの世界で能力を発揮しており、ある種の手作りの芸術に触れる環境ができている。ホールに行かなくても、どこにいても家に居ても外を歩いていても享受できるような芸術、特定の地点、特定の室内に限らず、広く外に開かれた敷居の高くない芸術を考えるべき。
- 先がわからない世の中だからこそ、色んな実験をしないといけない。どんなことでも市民が思いついた色んなモノを実験していくというやり方がふさわしいのではないか。

第２回全体会　発言要旨
・神戸には多くの人に知ってもらうメディアが少ない。福岡は福岡市に本社おく民放テレビ局が５局あるが、神戸市には１局しかないので、神戸で行なわれるイベント等をテレビで取り上げてくれる機会が必然的に少ない。 ・メディアを一つの分野ではなく、全てが関わることのできるプラットフォームだと考えてほしい。例えば毎週１時間神戸の文化芸術を取り上げる番組があると、番組の中で伝統文化や新長田・新開地・塩屋の特集、障害者・外国人が取り組むアートについて等の特集を組むことによって、様々なゲストを呼び、お互いに顔なじみになり、ネットワークづくりができる。 ・若者を中心に時代の流れは、ストーリーテリング。ビジュアル・映像でどのように見せていくのかというところに、若者は情報を得ていて、そこにコミュニティができたりする状況にある。テクノロジーでいうと、Facebook やツイッター、ライン等で動画のライブ配信ができるようになっているので、今すぐ神戸発でやろうと思ったら、お金をかけずにできる手段が多くある。重要なのは、レギュラーでやること。レギュラーでやることによりプラットフォームになり、人が集まってくる。 ・文化芸術に関わらず、ビジョンはつくるのに時間をかけて立派なものができるが、それで終わることが多い。一番大切なのは、どう実現していくかである。ビジョンはシンプルで複雑ではないものにすることが大事で、どのように実行していくのかが大切である。 ・文化を使って地域を盛り上げようとしている他の自治体には危機感があり、死ぬ思いでやっている。神戸市は人口が減り続けており、このままいくと危ない状況でありながら、住んでいる人にあまり危機感がないように感じる。 ・神戸というまちは全体が見えにくい。全体像が漠然としているのを、六甲山、西神、ダウンタウン、島等、ゾーンディレクターをつくり、ゾーンごとに何をするのかを決めて、お互いに競い合うようにし、地域の個性を磨いてはどうか。 ・マスメディアという話が出たが、マスという言葉は死語ではないか。少人数にピンポイントに当てるということは、メディアの絶対的な力を生み出すことになり、なんでもいいから広げていくのは逆効果。日本の学生はあまり外のことを知りたがろうとせず、満足しているように思える。常に視野を広げて神戸を飛び出し、外に視野を広げることが極めて重要。神戸としての文化芸術で刺激するようなプラットフォームを提供していき、世界との繋がりをつくっていくのが重要である。 ・文化ビジョンの中で目標が定まったら、目標に対してどの機関が何をやるのかをはっきりさせないといけない。そして、それぞれの機関のミッションを再定義する必要がある。 ・誰かがやるのを待つのではなく、各自がそれぞれの立場でできることをやったらいい。

２．第３回全体会

第３回全体会では、第１・２回全体会で出た意見を踏まえ、個人や地域が持つ潜在的な資源を活用して、具体的にどのようなことができるかについて話し合うワークショップを行いました。

発言要旨・具体的なプラン等
【１班】 近くて便利な六甲山 爆買いの時代が終わり、外国人旅行者の間では「体験型観光」の人気が高まっている。中国の方は、日本の教育体験に興味がある。このため、都市と自然が近い地の利を活かし、六甲山を海外も含め多くの人が集まり、神戸の多様な文化を享受できるような環境に整備してはどうか。特に穂高湖周辺は環境が素晴らしいため、遊休施設などを活用し子どもや家族連れがサマーキャンプなどの体験ができる教育系施設の整備を提案する。施設の改装は神戸の若手建築家に依頼し、茅葺職人の手により美味しい茅葺のレストランもつくる。並行して道路やネット環境の整備等も必要。自然と一体化した神戸独自の環境をつくり、広く発信するとよい。 【2 班】 財源確保のための新たな仕組みづくり・寄付文化の醸成 何か事業を実施する際、大企業に寄付を貰いに行くという仕組みから脱却することを提案する。具体的には市が独自でクラウドファンディングを立ち上げ、ふるさと納税と融合させた新たな財源獲得の仕組みを構築。運営費はふるさと納税で補う。神戸市には北区や西区などローカルで良いエリアがあるため、食や農と連携し、神戸市の特選ふるさと納税アイテムにすれば、自然とお金が動き始める。 ある幼稚園では、毎月ひとり 10 円を寄付金として集め、みんなで相談して今月は誰に寄付するかを決めるという取り組みをしているところもある。欧米ではキリスト教の献金という考え方により、寄付をして誰かを助けるということが文化の幼い頃から根付いている。日本でも 10 円寄付のような取り組みにより、幼い頃から自分ができることで誰かを支えるという意識が醸成できるとよい。 【3 班】 地元メディアを活用した動画による情報発信 インターネットを使った情報発信の仕方をすべて集約する仕組みができないかということを考えた。具体的には神戸新聞が立ち上げた動画に特化した会社を利用し、例えば「山」や「交差点」などトピックを絞ったものや、アーティスト特集でもいいので、どんどん動画を配信する。公共からも民間からも支援を受けられるデジタルメディアのあり方として、広告のビジネスはテキストから動画へと移り変わっている。このような動画発信プラットフォームに地元企業やコンテンツクリエイターが関わり、神戸市は直接お金は出せないとしても、関わることによって信頼を付与することができる。地元のメディア（神戸新聞やサンテレビ等）を有効活用することがネット時代の生き残りに繋がるのではないかと考える。

【４班】 街中を舞台にした劇場や心地よい音のある風景の創出

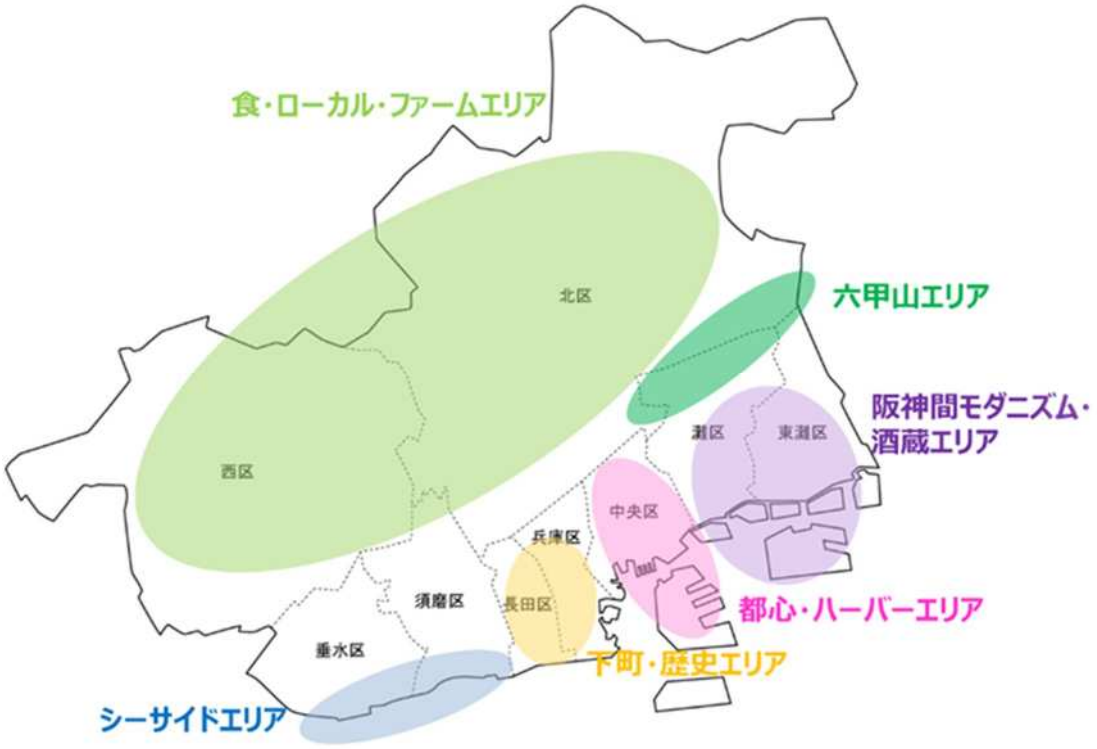
神戸は街中に彫刻のような３Ｄ のアートがあるので、建造物も含めこのようなものを活用した新たな劇場をまち中につくることができるのではないか。また音のインスタレーションということで、歩きながら音を楽しめる仕組みであれば、コストをかけずに実現可能。神戸は新しい事業展開が実現できるリソースをたくさん持っている。

【５班】 国際都市・神戸ならではの新しい葬儀ビジネス

近年、お葬式は簡略化され家族葬をする人も増えている。長田にはベトナム寺院があるが、在住ベトナム人からはお葬式に困っているという話も聞く。このため、多文化共生社会に対応した国際都市・神戸ならではの新たな葬儀ビジネスを提案したい。国によって異なる文化を理解し、通訳も用意したうえで、アーティストやクリエイターによる空間演出やライブパフォーマンス、華道家によるいけばななど、故人の属性や個性に合わせたオリジナルの葬儀を行う。お葬式後の飲食の場が楽しければ若い人も集まり、世代間交流の場にもなる。

３．第４回全体会

第４回全体会では、地域の資源を活かし個性を磨くための方策について話し合うため、第３回に引き続き、市域を６つのエリアに分けてワークショップを行いました。



発言要旨・具体的なプラン等
【阪神間モダニズム・酒蔵エリア】 六甲アイランドにはファッション美術館がある。服飾に特化したままでは発展性に欠けると考え、ファッション美術館を主体にした、ファッションと映像を組み合わせたコンペを提案する。 最近はスマートフォン１つでショートムービーが撮れるような時代であるため、例えば、スマートフォンに限定した映像のコンペを実施する。才能・技術のある人に注目してもらうため、大手携帯キャリアにスポンサーになってもらい、それなりに賞金を出せば、世界中からクリエイターの注目を集めることができる。六甲アイランドが映像を主体としたテクノロジー関係のラボが集まるエリアになるとよい。 ファッションは暮らし全体に関係しているため、地に足がついた「丁寧な暮らし」をしていくことにより、既に周りにあるもの豊かさにについて考える、ライフスタイルを考える、見直すということで、考えてもらう機会をつくる。 【都心・ハーバーエリア】 魅力創出におけるポイントは３つ。 １つ目は、神戸を都市生活のモデル的な光を放つ場所にする。都市間競争、子どもの教育、アーティストの成長を考えると、本物を見せることが大事である。神戸には２万人規模の採算が取れるアリーナがなく、コンテンツが素通りしてしまう。三宮や新神戸からダイレクトに行けるところにそういった施設があるとよい。都心に整備されるホールの近くには練習場を整備して共存共栄ができるとカルチャーが生まれてくる。また、夜という時間資源の活用策も考える必要がある。ベルリンには 500 件のクラブがあり、クラブからスタートアップがどんどん生まれている。アーティストとクリエイターとエンジニアと知見と資本が出会う場として機能するものが必要であり、それが文化の源泉になる。 ２つ目は、ハード・ソフト・システム。SDGs の観点から既存施設を徹底的に活用し、例えば市立博物館で結婚式やパーティーができるようにするなど、話題になるようにしなければならない。また港を市民にとって誇れる場所にすることが重要。市民にアイデアを求めると、どんどん出てくるので、神戸ならではのものを考えたい。 激動する社会の変化により誰も未来を予測できない今、丁寧に実験していくことでしか街を形づくっていくことはできない。クロスメディアイベント「０７８KOBE」は、未来の都市をみんなで体験するというコンセプトの元、市民発動で起こったものである。 ３つ目は、メディア。メディアがないと市民のムーブメントは生まれない。可視化して共有できる仕組みが必要であり、定期的かつ継続的に発信することが大切である。魅力だけでなく争点も取り上げて討論するべき。若者に訴求力があるスマホ向けのインターネットテレビにチャンネルを持ち、毎日発信する。多くの人が見ており既にプラットフォームがあるので、アクセスコストを減らせる

【下町・歴史エリア】

兵庫・長田エリアは平清盛縁の地でもあり、いわば、神戸の原点とも言える地域である。昔からのコミュニティが多く、近年は外国人も多く暮らしている。古いコミュニティと新しい外国人コミュニティが混在しているため、そこをうまく還元して繋げるのがアーティストの役割だと思っている。新しい世代をうまく地域に取り込んでいくと、文化・仕事・暮らしも新しくなり、次の芽生えが生まれる。

重工業エリアでは、兵庫突堤を中心としたアーティスト・イン・レジデンスができるのではないか。神戸アートビレッジセンターが新開地の街中にあるということも重要。時間はかかるかもしれないが、SOHOとしての輝く未来を持っている地域である。倉庫、空間、受け入れる寛容さがあり、無関心な関心があるので、そこを利用すべきである。

中央市場駅付近にイオン神戸南店ができたが、その一駅先には umie があり、棲み分けが必要。イオンの近くには兵庫運河があり親水性が高いので、プロムナードにすべき。

城崎国際アートセンターは、世界中のアーティストが集まって作品を制作し、その作品が世界を回っている。このエリアでもそのようなアーティストの活動拠点を提供できるようになり、そこでつくられたものが世界に発信されるようになるとよい。

【シーサイドエリア】

須磨・垂水エリアは、温暖な瀬戸内海気候・南向き・都心隣接という、全国的にも類を見ない良好な住環境があるので、神戸らしい海沿いのモダンな都市文化をつくれたらいい。塩屋や垂水は複雑に入り組んだ路地の奥にある木造建築に若者が引っ越してきており、ファミリー層以外にも、アドレスホッパー達の新しい文化拠点にするなど、多様な暮らしの方法にアプローチできる。地元の方に土地や倉庫などを貸していただき、アーティストが来られる施設ができれば、もっと色々なことができるのではないか。

【六甲山エリア】

かつて六甲山は企業の保養所やホテルなどが数多く点在する阪神間有数のリゾート地だった。週末となれば多くのハイカーが六甲・摩耶を縦走し、北側には名湯・有馬温泉がある。大都市のすぐそばにハイエンド・トラベラーも一目惚れする環境を神戸は有している。しかしながら、時を経て六甲山上は積極的な開発から忘れ去られ、廃屋が点在するような状況になった。そのような中、ここ数年、六甲山ホテルをリニューアルした六甲山サイレンスリゾートの整備・運営が注目され、グランピングサイトやカフェなどが散見されるようになっている。この民の力を後押しするべく、行政は重点地区として環境整備に注力すべき。

5G の環境整備とともに、重要箇所の電線の地中化、木製ガードレールへの置き換えなど、リゾート地に相応しい環境整備によって、積極的な民間投資を呼び込む事が自然保護の観点からも欠かせない。具体的には広大な敷地を有する神戸市立自然の家への家具職人たちのクラフト工房誘致や、森林植物園などとの連携した間伐材利用の薪ストーブによるカーボンフリープロジェクト。六甲山

牧場での自然素材ウール普及のワークショップ。オンラインとオフラインのベストミックスによる自然学校設置など、循環型社会の実現を目指せば、世界有数のエリアとして若い子育て世代の住む西神や北区などとの連携も強固になると思う。

また、現在アスレチックとレジャーが組み合わさったものが世界的にトレンドで、30 年先もトレンドであると言われているので、六甲山エリアでは 30 年計画でインフラを整備したい。

【食・ローカル・ファームエリア】

西区では子育て世帯をメインターゲットに、安心した暮らしができるよう、買い物・育児サポート・進学塾の誘致等が必要。

北区はファームエリアとしての特徴を生かし、「丁寧な暮らし」がしたい人に対するオーガニック食材の供給地になり得るほか、田舎カフェやサイクリングロードを整備し、ハイエンドの外国人観光客をターゲットに、日本の農村地域でしか体験できない観光プログラムを提案することもできる。

また、小学校の体験教育の一環として農村体験を行えば、都市と農村地域の繋がりも生み出すことができる。

良いもの、自然のもの、ホンモノが日常の中に取り入れられる仕組みづくりができるといい。

Ⅵ 市民アンケート等調査結果

１．神戸市文化奨励賞受賞者アンケート

(1) 調査概要

調査期間：平成 30 年 11 月 16 日～30 日
調査対象：神戸市文化奨励賞受賞者（平成 15 年~平成 30 年）56 名
調査方法：アンケート用紙の送付、メール、手渡し
有効回答：24 名（有効回答率 42.9%）

(2) 調査結果（抜粋）

問１　三宮再整備に伴い計画されている文化・芸術ホールにおけるソフト事業について、どういうことを期待するか。（新しいホールで何をすべきか）

・ 新たなホールは、神戸国際会館など既存の民間ホールと事業のすみわけを図るべき。
・ 文化の次世代への継承やこどもの豊かな人間性の醸成を目的として、次代を担うこどもたちが文化芸術に触れられる機会がたくさんあれば良いと思う。（文化鑑賞、ワークショップなど）
・ 新たなホールは、公演を鑑賞する人はもちろんのこと、ロビーやホワイエなどのフリースペースが学生やお年寄りの憩いの場となり、ホール全体が市民の交流の場になるような設計にすべき。
・ 新たなホールでは、芸術文化センターにはない強みをつくることが重要。図書館が併設されるのはとても魅力的だと思うので、舞台芸術系の蔵書の充実、国内外の優れた映像を閲覧できる環境の整備を期待する。
・ バリアフリー機能も充実していることが望ましい。

問２　神戸からどのような文化芸術を発信していけばよいか。（神戸らしい「重点」発信分野）

- それぞれの分野において、強いリーダーシップを発揮する人材の育成と活用が必要。また、多様性・国際性に配慮した文化活動・事業を実施・支援すべき（情報発信ツールの多言語化など）。
- 開港都市としての 150 年の歴史には、やはり他の開港都市とは異なる神戸だけのテイストがあると思う。マンネリと言われようと、やはり神戸はハイカラでおしゃれなまち。そして阪神・淡路大震災から生まれた震災文化は、まさに神戸固有のものである。神戸にはそれらを伝える芸術文化も蓄積されている。これらを神戸の資源と位置づけ、発信できたら素晴らしいと思う。
- 「神戸らしさ」といった一般的に通底する印象とともに、神戸の文化行政は三宮・元町を中心に展開されているが、近年では西部地域（新開地・新長田・塩屋など）における表現活動も盛んであり、芸術文化活動を主軸（または契機）にした比較的若い世代の移住者の増加も見受けられる。様々な分野において行政サポートのあり方が変化しているという今日においては、従来の三宮・元町中心の発信や拡充だけではなく、西部地域などの「もうひとつの神戸」のブランディングを視野に入れ、せっかくそこで芽吹いた「神戸らしさ」のある新たなアートエリアとしての可能性を枯渇させないためにも、継続性・持続可能な芸術文化支援の施策が重要である。
- 古くから異文化交流の街として栄えてきたことを踏まえ、クロスオーバーなイベントを屋外や屋内イベントスペースでたくさん催すべきであるとともに、インバウンド向けには日本の伝統芸能や神戸の食・酒を（夜を中心に）いつでも楽しめる箱モノがあれば、魅力発信に役立つと思う。
- 神戸ゆかりのアーティストによるレジデンスアンサンブルなど、「ご当地の音楽家」として若手が認識、応援され、育ててもらえるような仕組みを作ってほしい。
- 「フルートのまち」を切り口に、「音楽のまち」神戸を広くアピールするためにも、神戸国際フルートコンクール関連のイベントを充実させてほしい。
- 神戸はジャズ発祥の地なのでジャズの炎は絶やして欲しくない。ジャズを活かした国際交流などをするべき。
- 山・海・川など自然環境における文化資源とモダニズムなイメージを活かしながら、神戸の西部地域の下町や文化的建築遺産を活用して、今までとは異なる新しい神戸のイメージを醸成することが必要。
- 何か新しいものを持ってくるのではなく、すでに企業や市民が発信することで誕生し、育ちつつある文化事業や動きを行政がうまく活用し、さらに充実したものになるよう支えてもらいたい。
- 芸術の街として、どちらかと言うと何かを外に発信すること言うよりは、芸術を大切にしている、必要不可欠な存在だという事をぶれずに捉え続けているという姿勢を発信していけば良いと思う。

問３　経済・賑わいや教育・福祉のような異なる分野と文化芸術の関係は、どうあるべきか。
（分野横断的な取組み）

- 文化事業は経済、教育、福祉と連携し、より強く、柔軟に連続性を維持することが大切。特に幼児からの教育の中で芸術との関われるよう、美術館、劇場・音楽堂等を活用し、胎児から幼児・小学生の間に集中的に保護者の協力を得て経験・体験を持たせるべきである。また、市民文化の振興と継続において、高齢者のボランティア活動を奨励するべきである。経済との関わりでいえば、芸術家の作品販売の支援をしてほしい。
- 観光の関連でいうと、インバウンドで日本の文化を体験したい方は多いのだが、神戸にはそれを叶えてくれる場が少ないようだ。着物を着る、日本の建造物を見る等、入り口は簡単なことでいいのだが、さらに尺八や三味線を奏でる、日舞の所作を習うなどの体験ができれば最高の思い出になるだろう。文化施設でそんな事業ができればベストだし、観光施設に芸術家を派遣するのもいいかもしれない。文化的な楽しみを提供する「おもてなし」は、神戸の観光の質を高め、ゆくゆくは経済効果も出てくると思う。このように、文化芸術は異なる分野の課題解決や強みの拡充に活用できるものだと考える。
- 分野を問わず、芸術家による講演や実技指導、ワークショップなどを通して、大人・こどもを問わず立場の異なる人が交流できる場があれば望ましい。
- 芸術文化が生活に潤いを与える一助になるという価値観を広げるためには、こども時代に鑑賞する習慣をつくり、大人になっても親しんでもらえるようにすることが大切であり、音楽に関しては、こどもに気軽に良いもの（＝ホンモノ）を聴いてもらうことが大切。例えば文化ホールでの本格的なコンサートの一部を、神戸市在住のこどもを無料にするなどの試みがあればとても価値がある。
- 教育、福祉に音楽・芸術は必要不可欠。近年アウトリーチという言葉が流行したが、生の音楽を演奏者がその場に出向いて聴いてもらうことは大切。特にこどもや高齢者など、コンサート会場へ行くのが難しい方々には、芸術家のほうから出向く必要があるだろう。
- こどもが教育の面も含め、芸術に触れる機会を増やすべき。高齢者には昼間のホールで合唱イベントなどに参加いただくなど、家から外に出る流れを作ることが重要だ。
- 他都市とは異なる新しい芸術文化資源をつくることが必要。芸術祭等のイベント性の高いものと、それらを通じて継続性のある芸術的な環境をつくることで、日常的に訪れたい都市を形成し、交流人口、観光客を増やすべき。また教育に関しては、創造性豊かなこどもたちを育成する教育から、大学に関しても卒業後、神戸で活動できる状況を、県内の文化施設と連携しながらつくるべきである。福祉に関しては、障がい者や高齢者、これからさらに増加すると思われる外国人等、一般的に社会的弱者といわれる人たちを、芸術文化で包摂する仕組みをつくることも重要である。

問４　住みたくなる街として市民文化の振興のために必要なハード・ソフト施策には、
どのような事業があればよいか。（行政がすべきこと）

・ 空き家をアーティスト・イン・レジデンスなどに活用すべき。また、神戸の文化に特化した携帯アプリの開発や、神戸の文化のホームページの充実に取り組むべき。
・ 現在までの良い文化を残し、また、新しい文化を創造するには、その都市の中心部に、「美術館」「図書館」「情報センター」などを据え、積極的に担い手の育成を目指し、教育機関、産業の連携をはかり、若い芸術家、デザイナー、クリエイターなどにその都市に住んでもらう必要がある。特に、時代の先端ばかりに焦点を当てるのではなく、伝統文化、芸術の維持・発展を助け、様々な世代、分野、系統の人達が共存し、また連携していく必要がある。芸術の様々な分野とデザイナー、クリエイターが結びつき、企業がバックアップする。そのようなことが継続的に行われ、上記のことをまとめていく「（仮称）芸術総合情報センター」のような施設を行政が設置し、運営するべき。特に、現在ある職業の半数近くがなくなるであろうと言われる AI 時代を迎える中、文化芸術の役割を通し「人々の幸福とは何か？」を、そのような施設で問い続ける必要があるだろう。
・ こどもや高齢者が外で芸術文化に触れられるイベントや、休日に親子コンサートなどを実施し、神戸市民は無料または特別割引にするほか、野外パフォーマンスのステージを増やし、あらゆるアーティストに出演してもらうと良い。また、神戸にはたくさんの素晴らしいイベントがあるのにも関わらず宣伝が行き届いてない様に感じるので、SNS での宣伝などにもっと力を入れるべきではないだろうか。
・ 近年増加している空き家、空きマンション等を活用し、アーティスト・イン・レジデンスの拠点をつくるべき。現代はネット環境が整備されているのでどこに住もうが情報は手に入れることができるが、新長田ではアーティスト同士だけではなく、地域住民との交流ができることをメリットに感じて、住みたいと思うアーティストが徐々に増加している。短期・中期滞在からさらに永住するアーティストが増加することが望ましい。かつて NY のソーホーやチェルシー、韓国の大学路（テハンノ）などではアーティストが居住し活動することで街が活性化したほか、新しい創造性のあるアイデアが生まれ、衰退化していた地域が復活した事例もある。ソフト面でも地域住民との様々な交流をつくることで、アーティストにとっても地域住民にとっても、今後必要と思われる循環型の豊かな関係の構築が可能である。そのような取組みを、行政の支援制度や、企業によるスポンサー活動、スカラーシップ制度などで補完しながら進めてほしい。
・ 市内で行われる文化事業を、SNS を有効に使って発信していただければありがたい。また、公園の整備、街並みの整備（緑化施策）をしてほしい。
・ 既にあるものを大事にしてほしい。三宮が再開発され綺麗な街になるのはいいのだが、どの街も同じような綺麗さで、その街独特のにおいのようなものがなくなってしまっては魅力的とは言えない。三宮が綺麗になるならば、なおさら元町の高架下など、昔からの風情を残して活かすことも大事にしてほしい。自分自身が他地域から神戸への移住者だが、神戸は本当に暮らしやすい良い街だと思う。暮らすのにちょうど良いぐらいの都会性とすぐ近くにある自然、多国籍な豊かな食文化が魅力的である。文化芸術面では、芸術祭のようなイベントもいいのだが、美術館、博物館、図書館などのインフ

ラの充実も非常に重要だと思う。また、最近は「官製ワーキングプア」などと言われ、学芸員や司書などの専門職も使い捨てのようになっていると問題視されているが、やはり人が安心して仕事をし、経験を積んで暮らしていけるような環境が大事であろうと思う。職と住の良い環境があれば、人が集い、交流が生まれ、それが良い街を作っていく、というのが理想的ではないか。

・ 神戸には多くの外国人が暮らしており、今後はインバウンドの増加も予想されるので、情報発信の多言語化も望みたい。

問５　文化事業に関して、行政・企業・市民がどのように関わっていけばよいか。
（各主体ができること）

・ クラシックでは、やはりコンクール事業をうまく活用してほしい。行政・企業・市民が最も参画しやすいものだと思う。入会条件の厳しい国際コンクール世界連盟に加盟するようなコンクールは世界で 122 しかなく、神戸国際フルートコンクールもその１つであるが、４年に１回の開催であり、市民に浸透していなかったこともまた問題点として挙がった。韓国のソウル国際音楽コンクールのように、フルートの伝統を残しながら、ピアノやヴァイオリンといったメジャーな楽器のコンクールを毎年文化ホールで、特定の時期に持ち回りで行ってはどうか。今は DVD や動画サイトを活用して審査することもできるから、予算規模の縮小も可能だと思う。また、市民の協力も不可欠であり、前回のフルートコンクールではのべ 100 人以上のボランティアの方に協力いただいたと伺っているが、コンクールの時だけではなく、毎年何らかの事業で、文化交流に携わりたいという人たちに継続的に参加してもらえる体制を作ることができれば、広がりを持てるのではないか。

・ アートマネジメントに興味を持つ学生ともっと積極的に交流を図るべき。例えば、芸術文化事業を実施または支援したい行政や企業が、神戸市内の若手・中堅アーティストと大学生をマッチングし、協働する企画を進めさせてはどうか。斬新で面白いイベントが生まれる可能性があり、アーティスト・大学生の両者にとっても非常にいい経験になるし、「若者に選ばれるまち」を目指す神戸らしい取組みになると思う。

・ 文化事業に関しては、今までのように行政主導ではなく、民間の文化活動を行政や地元経済界がサポートしていくのが理想だと思う。

・ もう少し企業が大々的にスポンサーになるイベントがあってもいいのではないか。アメリカには企業がスポンサーになり自身の会社名を冠に掲げた無料イベントがたくさんあった。市民ベースでイベントを動かし、行政はその後押しをする、というのがよい。

・ 文化事業がこれからの社会にとってどれほど必要か、行政・企業・市民が対話できる機会をつくりながら、勉強する機会をつくるべき。コミュニティアートのこれからの在り方を協働しながら志向できる方法を考えるべき。

・かつては企業のメセナ活動として、収益から一定の比率（１％）を拠出し、芸術文化事業を含む社会貢献に充てていた事例がある。経済の動向に左右される事案もあると思うが、優れた芸術文化を育成することは必要だと思うので、行政の支援とも併せて、今後もメセナには積極的に取り組んでいただければありがたい。

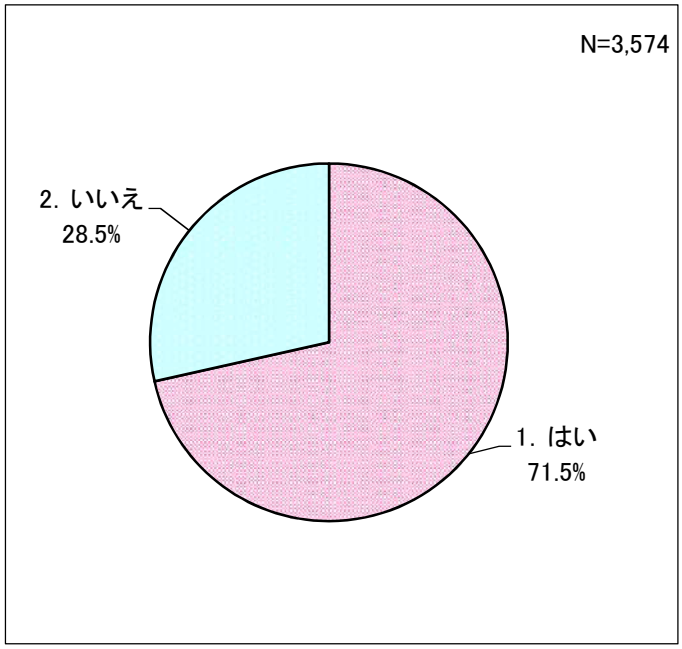
２．神戸市ネットモニターアンケート

(1) 調査概要

調査期間：令和元年７月 23 日～８月５日
調査対象：神戸市ネットモニター制度登録者　5、469 名
調査方法：ネットアンケートの送付
有効回答：3,574 名（回答率 65.4%）

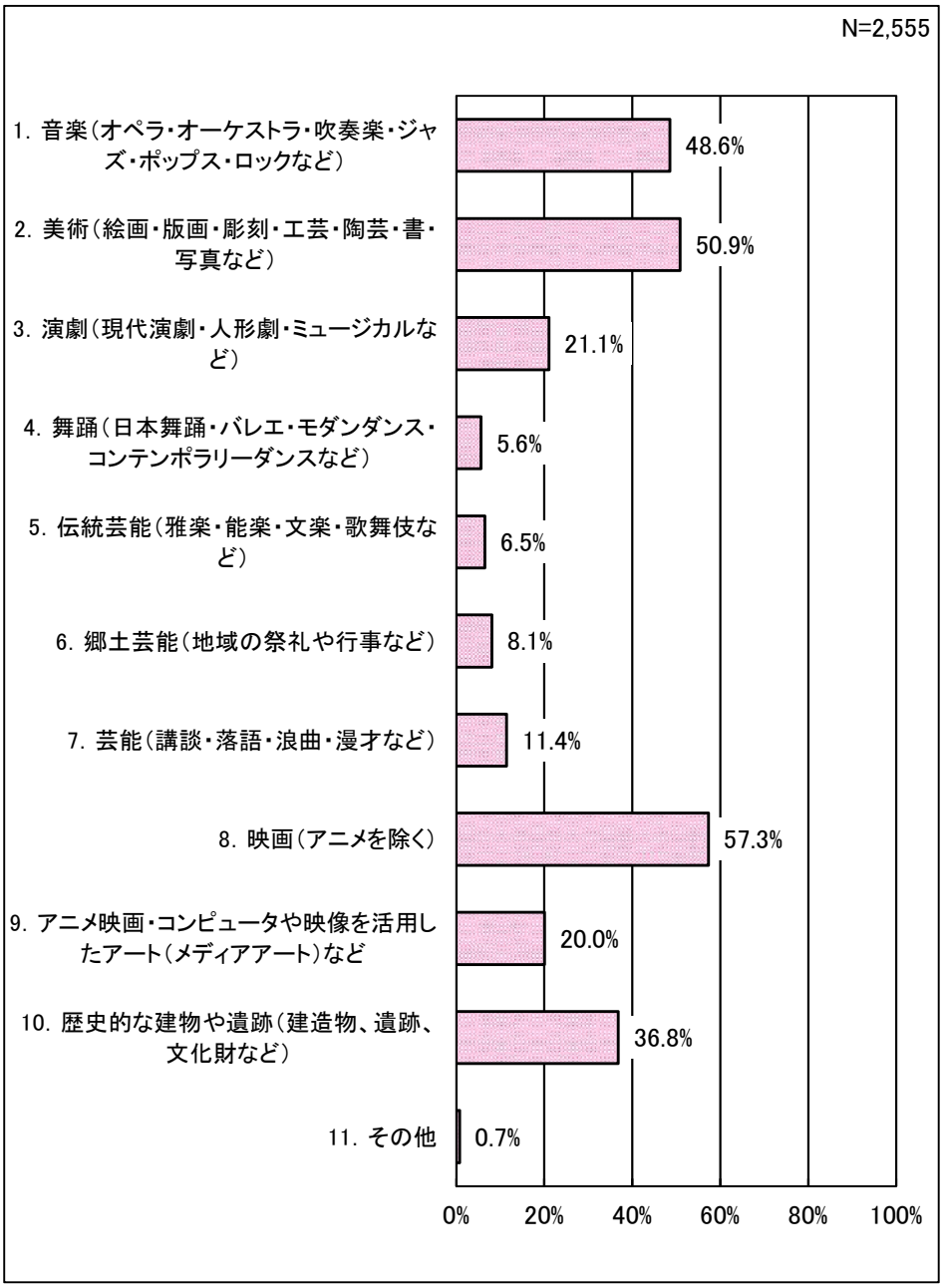
(2) 調査結果

問１　あなたは直近１年間で、芸術文化を鑑賞しましたか。
（絵画・コンサート・演劇・映画など）



問１－１　<直近１年間で、芸術文化を鑑賞した方>

どのような芸術文化を鑑賞しましたか。（該当するものすべて）



「11．その他」

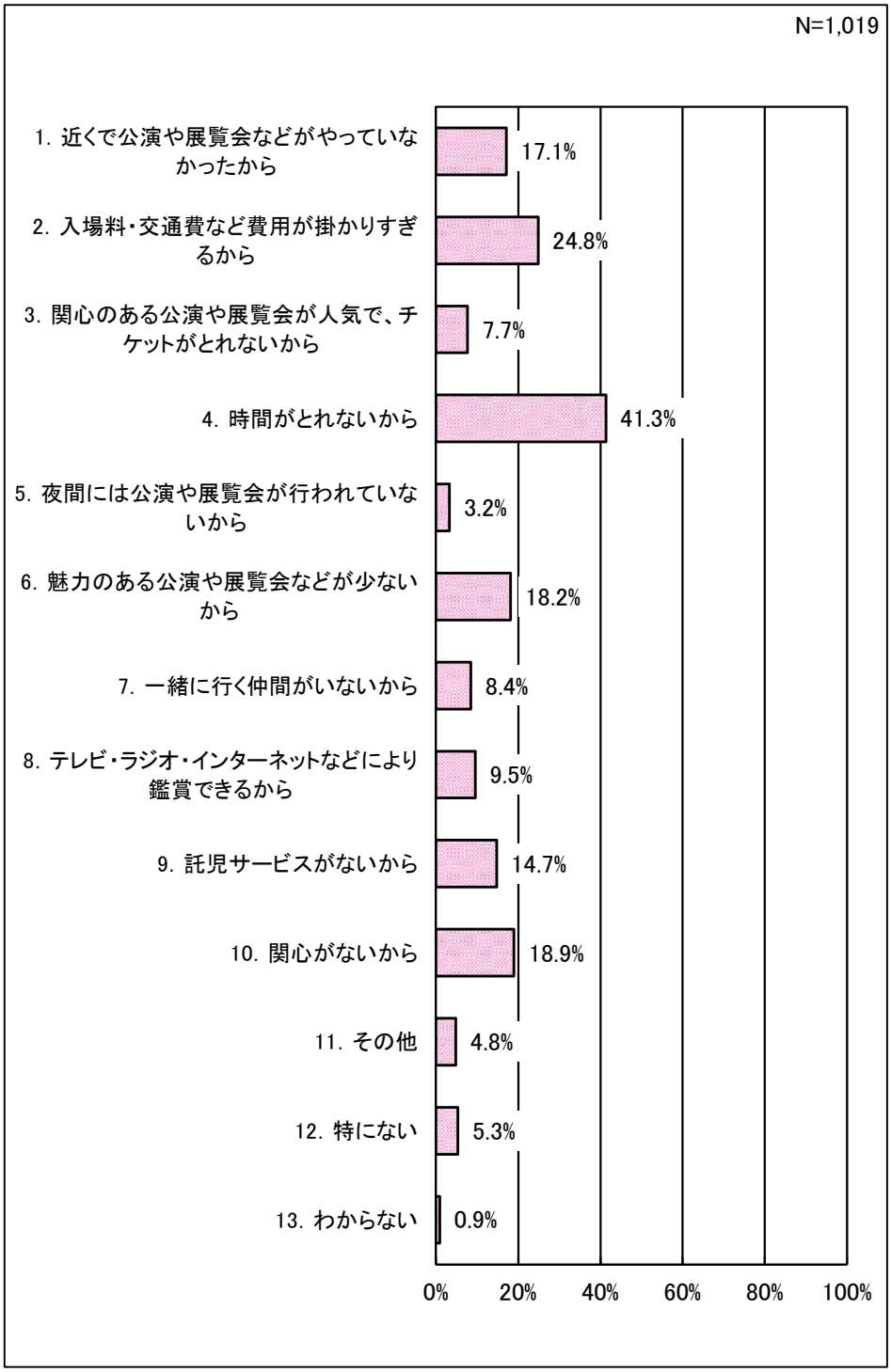
・アイススケート

・芸術祭

・寺社仏閣の神仏像

・神道・仏教美術　など

問１－２　<直近１年間で、芸術文化を鑑賞していない方>
鑑賞しなかった理由を選択してください。（該当するものすべて）



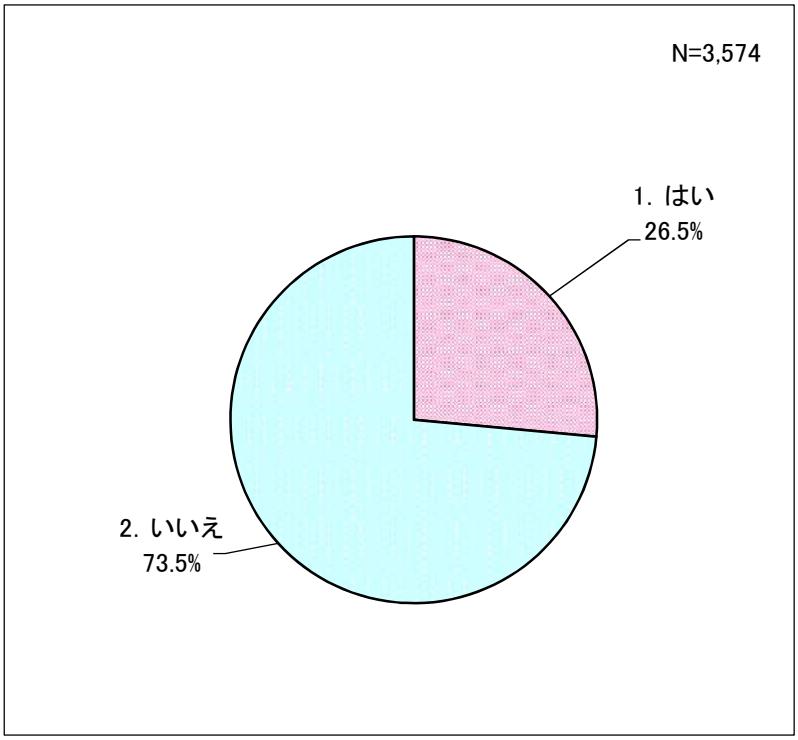
「11. その他」

・小さい子供がいるため

・身障者のため、一人で外出できない

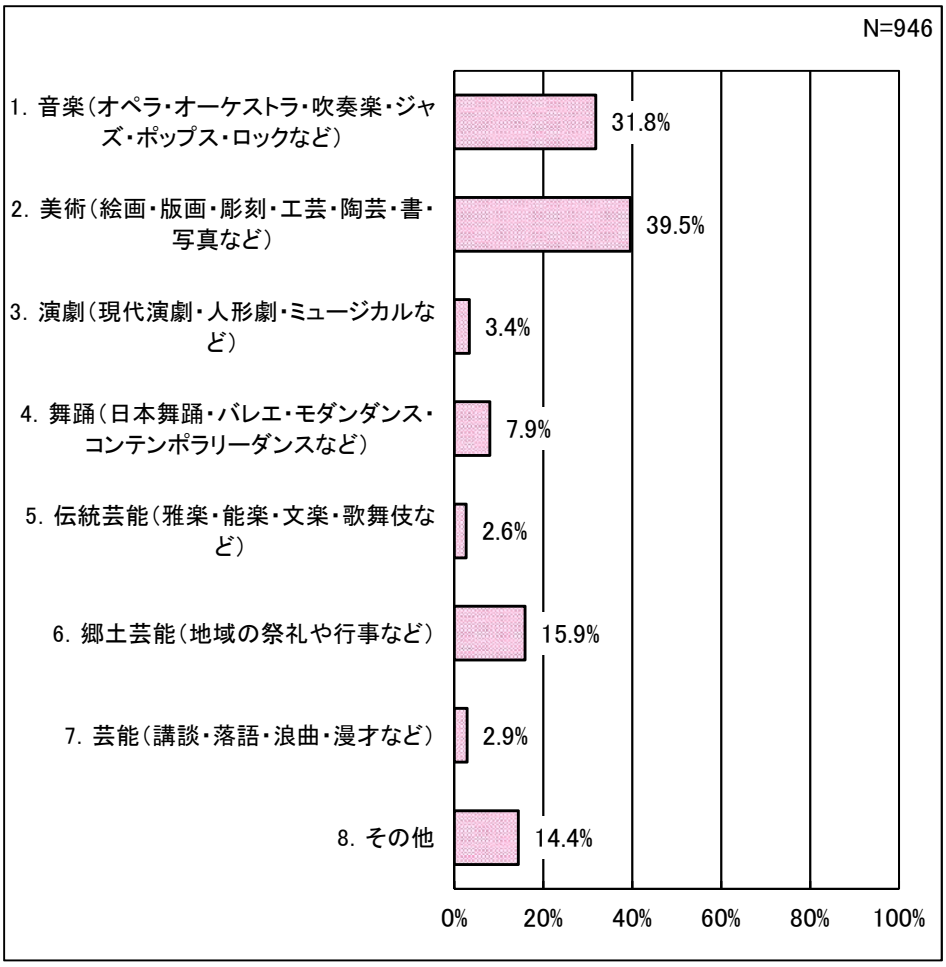
・どんな講演、展覧会があるか情報がない

問２　あなたは直近１年間で、芸術文化活動を行いましたか。
（創作活動、習い事、行事参加、ボランティア活動など）



問２－１　<直近１年間で、芸術文化活動を行った方>

どのような分野の芸術文化活動を行いましたか。（該当するものすべて）



「８．その他」

・フラワーアレンジメント

・茶華道

・俳句・川柳

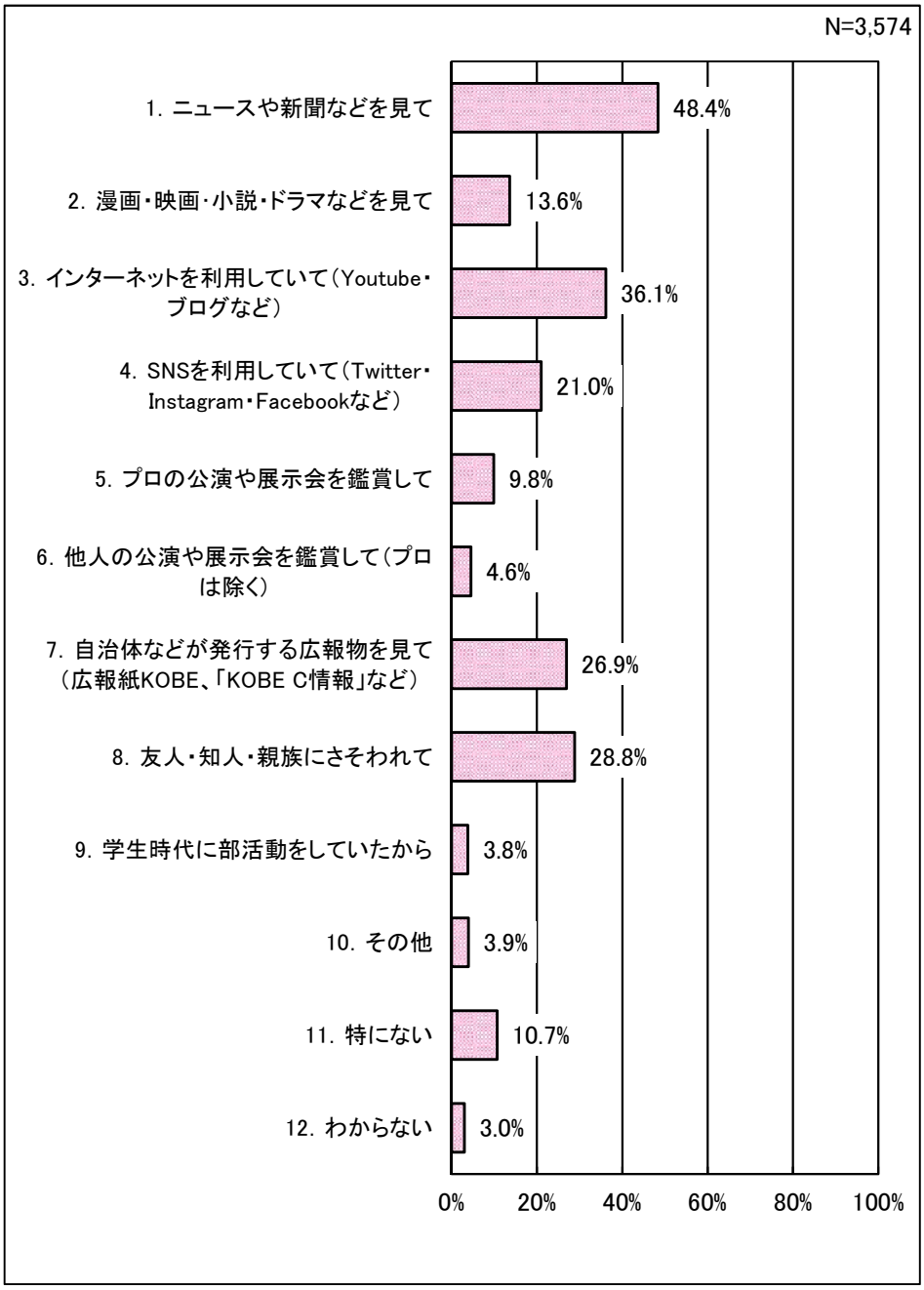
・ボランティア活動

・料理教室

・着付け

・手芸　など

問３　芸術文化活動を鑑賞したり始めたりする情報やきっかけをどこか得ましたか。
（該当するものすべて）



「10.　その他」

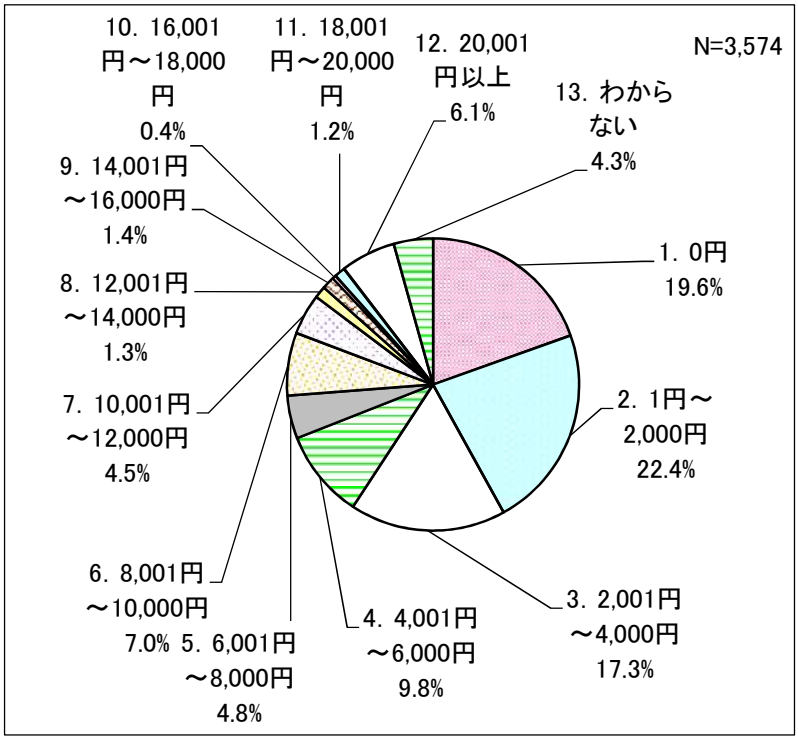
・車内広告

・ファンクラブからのお知らせ

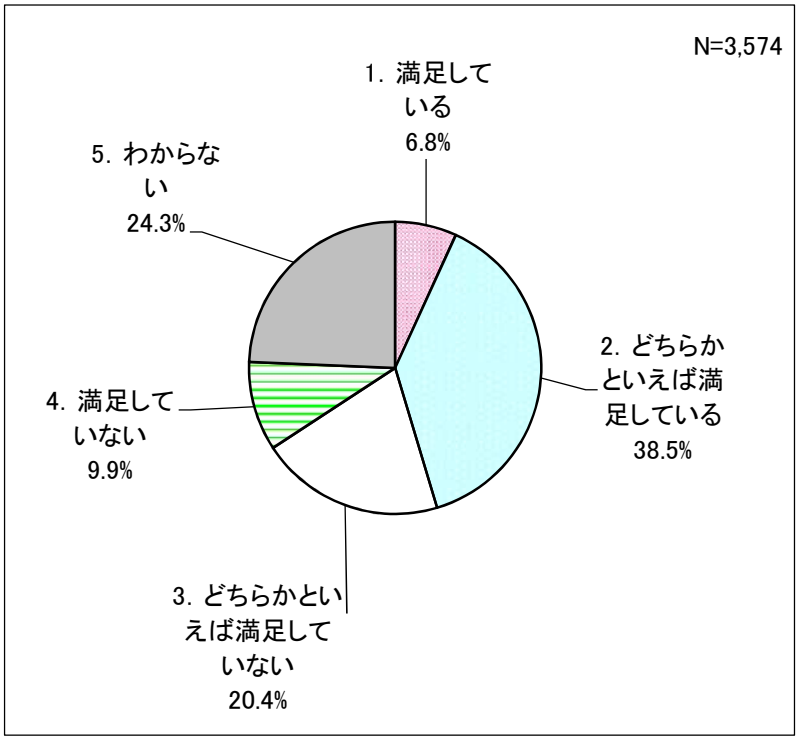
・子供の学校からもらうプリントを見て

・街角のポスター　など

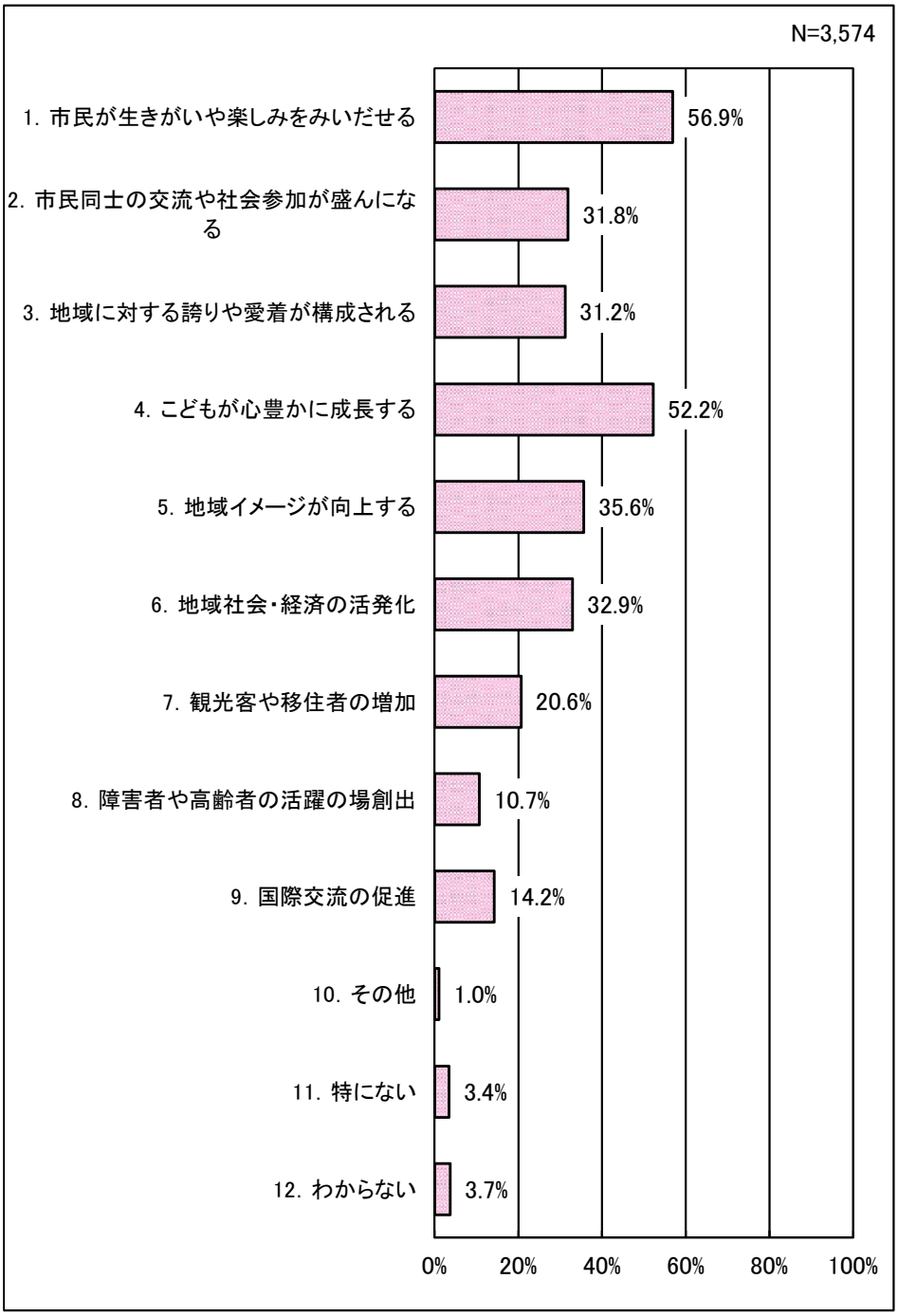
問４　あなたは直近１年間で、芸術文化活動のために１ヶ月平均いくらぐらいのお金を支出しましたか。（鑑賞チケット代、美術館等入場料、習い事の受講料、作品購入代、寄附など）



問５　あなたは、文化施設の使いやすさや、芸術文化の鑑賞・習い事をする機会など、神戸の文化的な環境に満足していますか。



問６　神戸の文化的な環境が良くなることにより、どのような効果が現れることを期待しますか。
（該当するものすべて）



「11．その他」

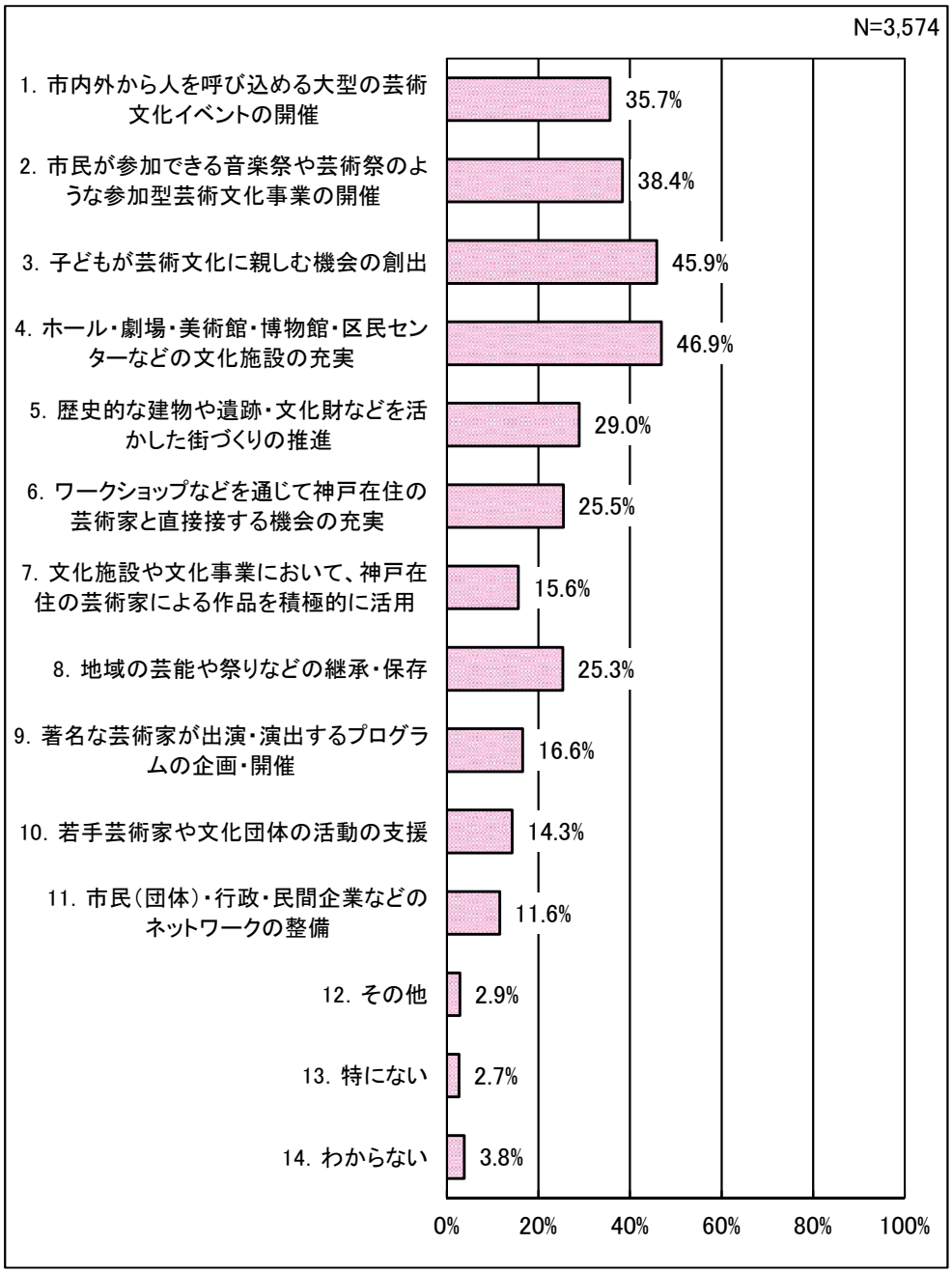
・未来の画家や芸術家が育つ環境が整う

・子育て世代の移住を検討する際の材料（文化レベルの高さ）になる

・治安の向上・寄付金額の増加・地域住民の所得増加

・地域のアイデンティティ、独自性　など

問７　神戸の文化的な環境を充実させるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。
（該当するものすべて）



「12.　その他」

・交通手段、駐車場の整備

・障害者も参加しやすい設備や雰囲気

・無料で観覧できる気軽なイベント

・様々な活動を一つのサイトや冊子などで見られる情報源が欲しい（今はあちこちのサイトや冊子で探さなければならない）

・地元芸大(神戸芸工大)との連携　など

問８　自由意見、感想（抜粋）

- 神戸出身、神戸在住のクリエイターを支援し、神戸から新しい芸術文化を発信できる環境づくりをしていただきたいです。
- 子供の頃から芸術に親しむことができれば、親になった時にまた子供を連れて行ったりできるようになると思います。特別なことではなく日常の一つになれば表現者として参加する人も鑑賞者として参加する人もふえ、活気のある街になるように思います。
- 国際色豊かで多彩な文化だと思う。一方で、神戸ならではの芸術文化とはなにかと言われたらよく分からない。より地域性が感じられるものを前面に出してはどうかと思う。
- 神戸の芸術文化といえば近代に目を向けがちですが、それ以前の遺跡や史跡も素晴らしいものがあると思います。その辺のアピールが不足しているのではないかと思います。外から見たもうひとつの神戸をもっと広めて欲しいです。
- 芸術文化を生かして認知症予防や健康維持につなげてほしい。
- 広報が悪い気がする。せっかく良いイベントを開催していても知らなかったという事が多々ある。
- 神戸には美術館・博物館や芸術イベントはそれなりにあるものの、宣伝が足りないのか市民にもあまり知られてないのが現状だと思う。さらなる広報活動や、企業の助成でもっと芸術文化関係が活発になることを期待したい。
- 神戸市の芸術文化は三宮などの都市部が中心で郊外在住には少し縁遠い。もちろん興味があれば遠くでも伺いますが興味がなければ機会は少なくなります。
- 習い事などをしたくても、平日の午前中などがメインで就業者には時間的に参加が難しい場合が多い。市民講座も充実していると思うが、夜間帯などの時間への対応があっても良いと思う。
- 子供の小中学校の行事が土曜にあった翌週月曜は振替休日になるが、ほとんどの図書館・美術館・博物館は月曜日が休館なので行く機会を逸してしまっている。これは小中学校という多感な時期に感性を養い損なっているのではないかと、大変残念に思う。

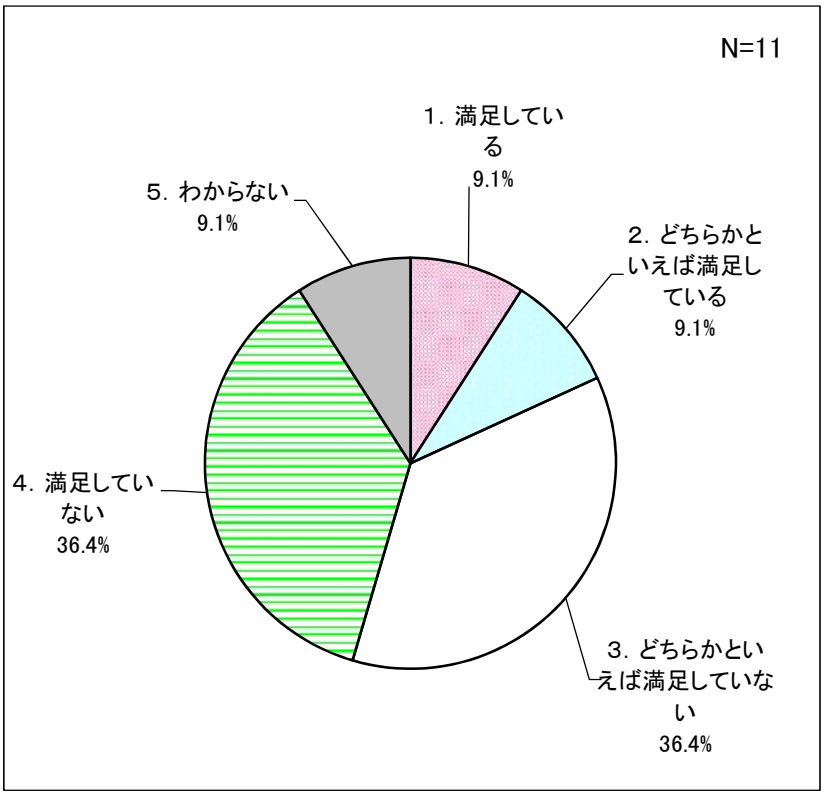
３．芸術文化団体アンケート

(1) 調査概要

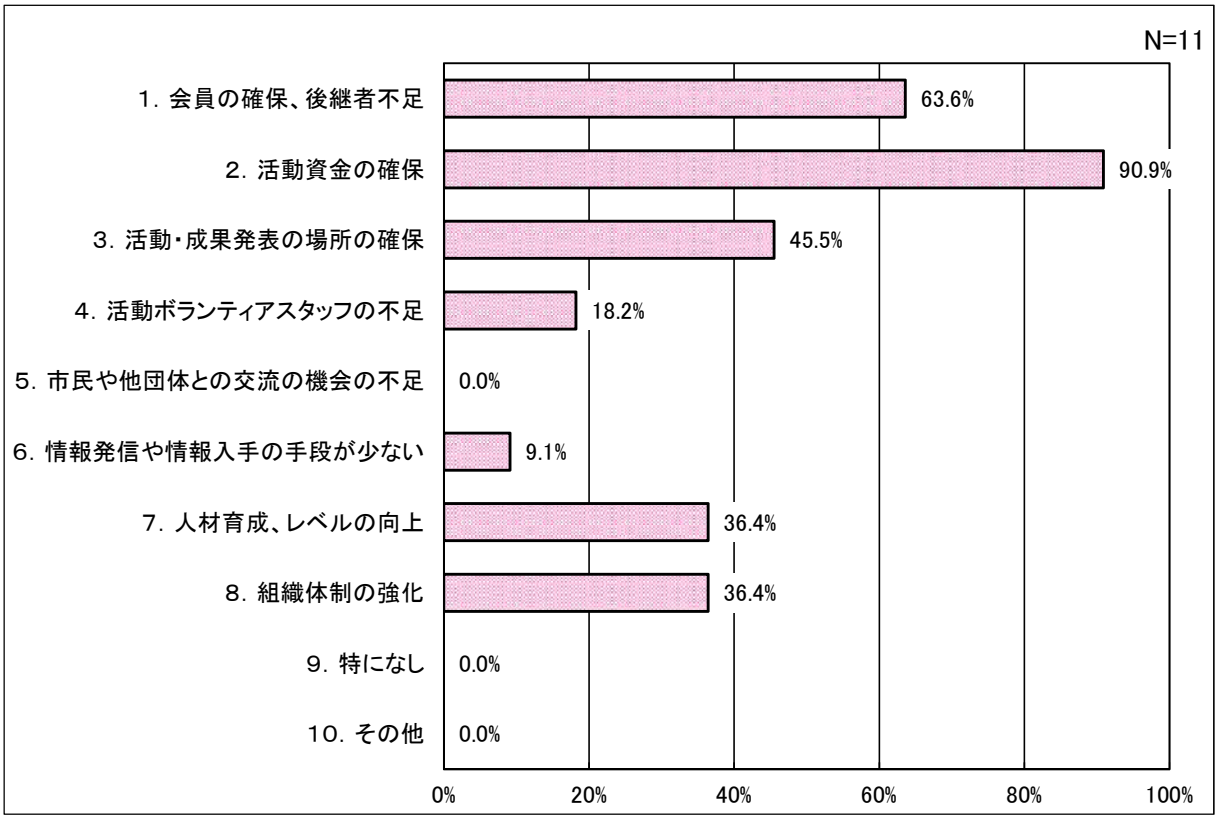
調査期間：令和２年１月 10 日～24 日
調査対象：市内を中心に活動する芸術文化団体　32 団体
調査方法：アンケート用紙の送付
有効回答：11 団体（回答率 34.4%）

(2) 調査結果

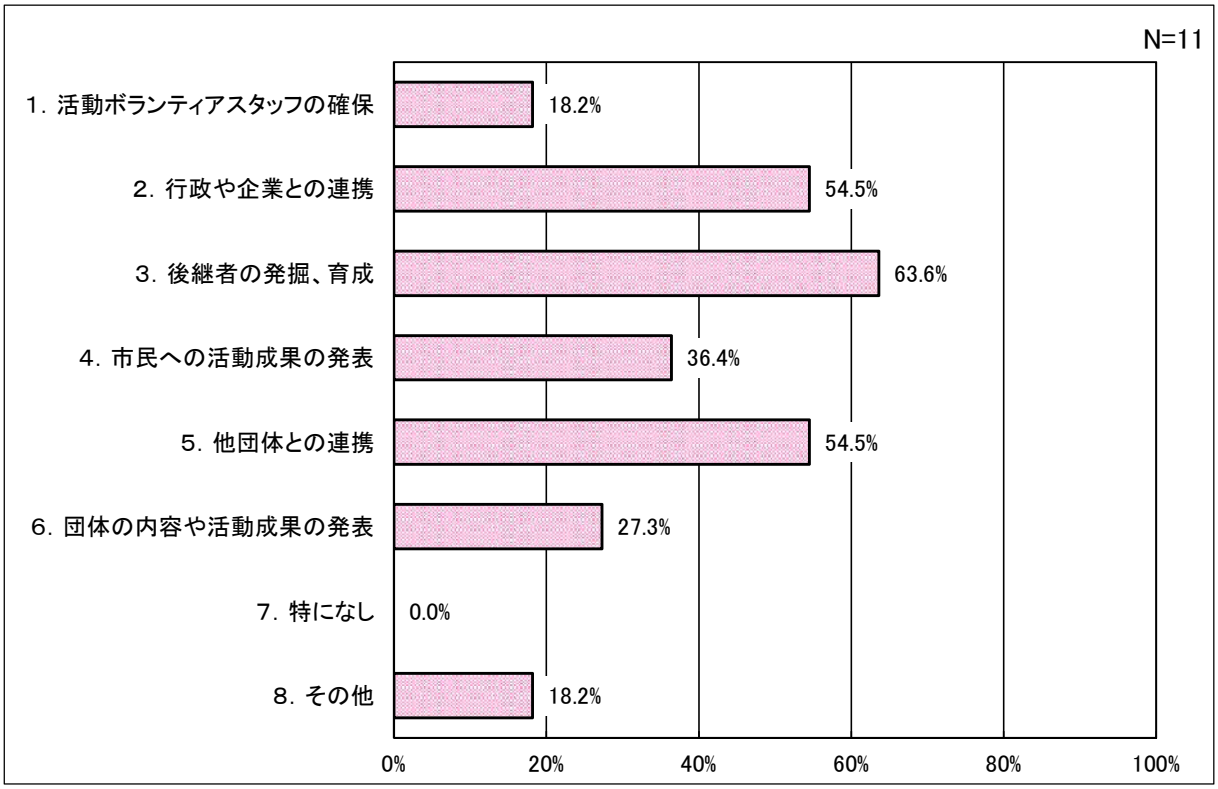
問１　貴団体が、芸術文化活動を行うにあたり、文化施設の使いやすさや、発表の機会など、神戸の文化的な環境に満足していますか。（該当するもの１つに○）



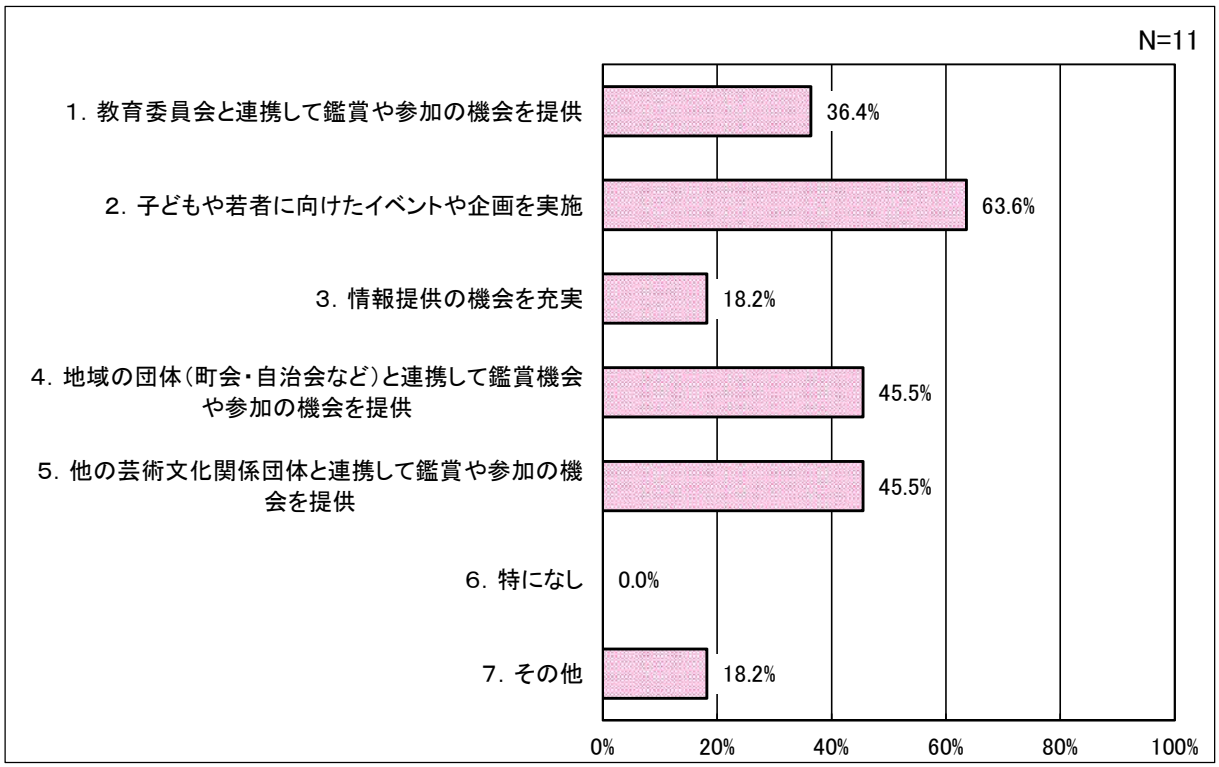
問２　貴団体が普段、芸術文化活動をしていて課題に思うことは何ですか。（該当するものすべて）



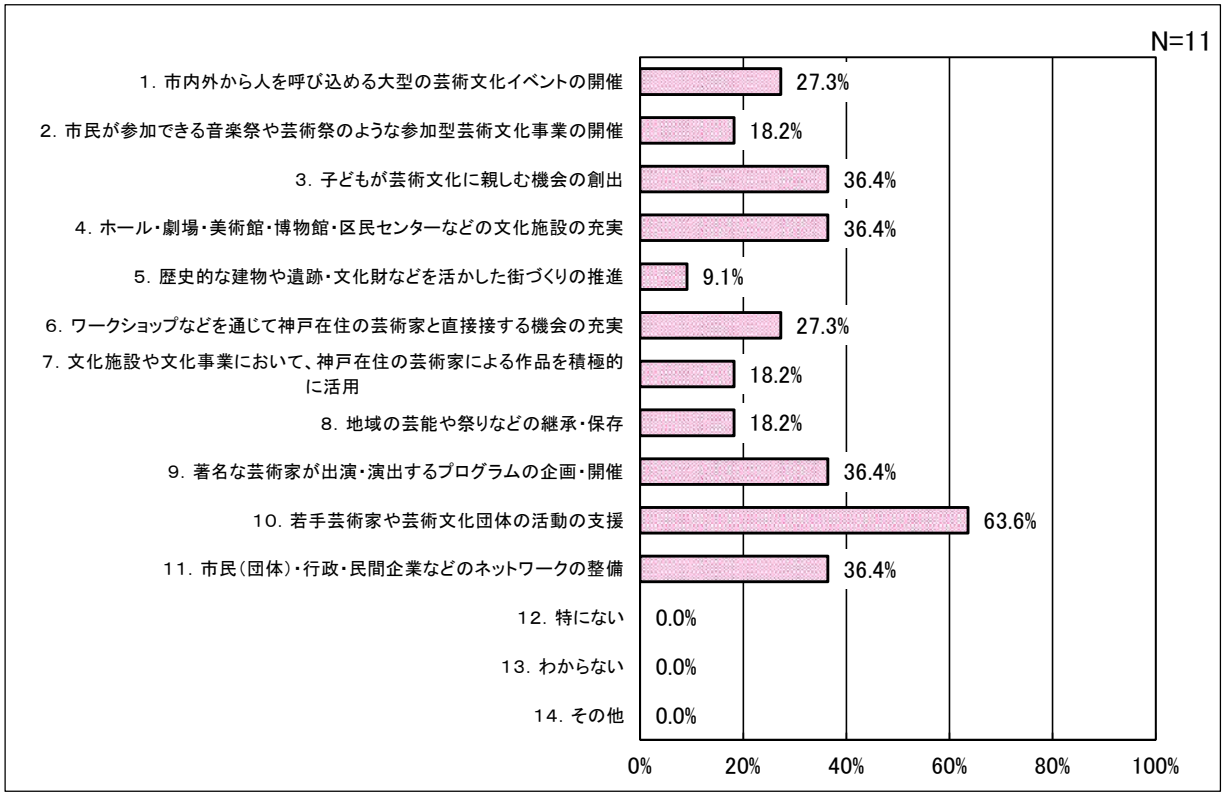
問３　貴団体がこれから文化芸術活動を続けていくにあたって、力を入れて取り組みたいことは何ですか。（該当するものすべて）



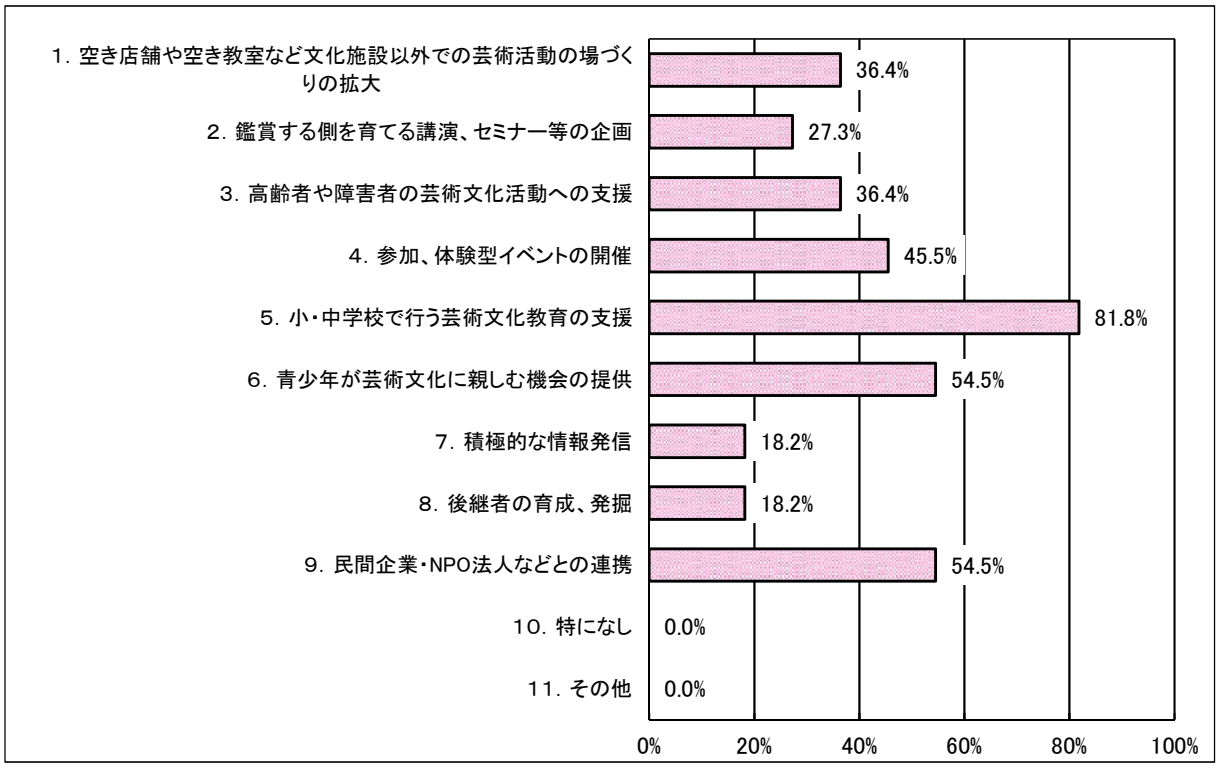
問４　貴団体は、子供や若者の一層の参加を促すために、どのようなことに取り組んでいますか。
（該当するものすべて）



問５　神戸の文化的な環境を充実させるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。
（該当するものすべて）



問６　一般的なお立場でお聞きします。神戸の文化的な環境を充実させるために、芸術家や芸術団体はどのような取り組みに力を入れるべきだと思いますか。（該当するものすべて）



問７　自由意見（抜粋）

- 小学生未満の児童が、劇場で鑑賞する機会を与えるべく補助があれば良い。
- 神戸は草の根レベルの文化活動はとても活発だと思う。逆に、先駆的、冒険的な大型企画が無さすぎる。行政が予算をつけて、思い切った企画を行って欲しい。
- 神戸市（兵庫県）は古来より、日本の東西交通の要所で人の往来が盛んでした。必然的に歴史的な事変も多くありました。また、明治維新後も海外との交通の要所として栄え、国内だけでなく海外との窓口として栄えたことは広く知られています。しかし、歴史的建造物は少ないと思います。異人館は別として、神戸港、六甲山、そしてジャズなどはまだまだ観光資源としても発展できる要素を持っています。ビッグバンドジャズ、フルート、ジャズボーカル等はコンテスト等でかなり実績を重ねてきました。すべての文化活動に力を注ぐには経済的にも困難と思われます。本場とか発祥を名乗るには技術の高いプロが集える場が必要と思います。
- 展覧会を開催するにあたり、手ごろな大きさ・価格で交通の便も良いところが少ないように思う。音楽ホールの設備はどんどん増え、良くなっているように思われるが、展示会場となると少ないと思う。新中央区総合庁舎にできる多目的ホールなど、展示スペースもできるよう、今後新たにできる庁舎・三宮周辺整備事業に期待したい。

４．「神戸市 with コロナ対応戦略」策定に向けた意見募集

(1) 概要

募集期間：令和２年６月中旬～７月上旬
募集対象：うちで過ごそうアートプロジェクト第３弾（※P43 参照）参加アーティスト
回 答 数：25 件

(2) 主な意見（抜粋）

「with コロナ」時代において今後も変わらず大事にしていくべき考え方や視点

- ソーシャルディスタンスに配慮しつつも、人との繋がり、共助のできる関係性を維持すること。それが災害への備えになり、まちづくりの基本であることに変わりはないと思う。
- YouTube 等、動画配信や SNS 等が今後より一層広がって行くと思うが、音楽や文化に直に触れていただく生の世界を今後も大切にしていきたい。その為に、その都度、状況を考えながらどうしたらできるか、模索していく必要がある。
- オンラインの動画配信はできても、生の演奏とは別物である。オンライン配信を否定するものではなく別物ととらえ、生の演奏活動も可能になるよう工夫を求めていきたい。演奏会場となるホールの収容人数を半減することや換気など、科学的データに基づいた対策がとられ、早く演奏活動が再開できることを期待したい。
- 「with コロナ」時代において、今後も大事にしていくべきことは「芸術を止めない」ということ。病気は医者が治し、心は芸術が整える。経済活動を支え、経済をまわしていくのは人であり、人を動かす原動力は「心」である。心が乱れ、心が病むと、いくら「オンライン」を駆使しても心と心はつながっていかない。見えるモノだけでなく、「アート」「娯楽」「サービス」などの見えないモノが社会を支えているとう考え方が益々必要になると思う。芸術は困難な時にこそ力を発揮する。

「with コロナ」時代に変えていかなければならない考え方や視点

- これをチャンスと捉え、労働生産性の向上やグローバル化の転換点に変えていくことが重要。災害時と同様、従来から抱えてきた社会の弱い部分、課題があぶり出されている今こそ、それを改善していく大胆な舵きりのチャンスと感じる。
- 徐々に私たちの COVID-19 に対する知識も増えつつある今、やみくもに制限するのではなく、生活の質や経済活動を維持しながら生きていくことが必要と思われる。何を恐れ何に気を付けていけばよいかの情報を絶えずアップデートしつつ、活動をできる限り維持する、それがコロナと共存の時代のやり方であると思う。

行動の変容により必要となる知識や技術

・ 身近な生活レベルでは、変容よりも逆戻りと感じる事柄も多く見受けられる。注意深い人と、あまり気にしない人との価値観の分断や溝をならすために、社会的コンセンサスを形成していく働きかけが一層求められると感じる。立場の異なる人同士が本音で意見を交わすワークショップ等、声を聞くことも大切ではないか。

市民が文化芸術活動に親しみ、楽しめるルールづくりや場づくり

・ 動画やブログなどの強化を元に、ネットワークの知識を強化し、三密を避け自由に発信できるスペースの開放や同時配信などを考えていきたい。
・ 美術に限って言えば、様々な場所で楽しむことができるという利点があり、形式にとらわれなければオンラインでも発表は可能。しかしながら、芸術において最も大切になってくるのは「ライブ性」である。演劇や音楽と同じように、美術もその場で直接鑑賞するのとオンラインで画面で見るのとでは違うはずであり、人数制限を設け予約制にするなど、高級サロン店のような特別感を持たせることで、さらに美術の価値をあげる仕組みづくりも必要かもしれない。反して、誰もが楽しめるアートとして、オンライン展覧会をデジタルが苦手な方でも実践できるようにすることも大切である。オンラインの気軽さと、ライブ性の高級感の両立を作ることが一番の理想と考える。

ソーシャルディスタンスの確保など「with コロナ」時代に対応できる公共施設のあり方

・ 公共性と人数制限など様々な制約とは両立が難しいように感じるが、既存の施設の価値観に縛られず、違った活用方法を公募したり、そもそも市民が何に不便を感じていて、どのような施設のあり方を求めているのかを一層吸い上げ、それに応えられるよう柔軟な対応を取っていただきたい。

その他・全般

- ライブが普段通りに開催できないのはとても残念だが、こればかりは仕方がないので今は仕事の内容をどんどん変えていっている最中である。音楽制作はもちろんだが、私のようなアーティストにとって動画で配信していく事が非常に大切になってきた。このように働き方を変えなければいけない方が沢山いると思う。自分の仕事で今できる事は何か。どういう対策で自分の仕事を続けられるか。転職をしなければならない方も多くいると思うが、健康にこの後も過ごせていけたら、また本当に自分のやりたかった仕事ができる時がくると思う。なので、今は変化を受けいれて柔軟に対応していくことが最も重要だと思っている。
- エンターテインメントや舞台芸術関係者にとって、ソーシャルディスタンスを保ちながらコンサートや舞台公演を継続するというのは非常に厳しい状態である。出演者同士の距離を保つことが難しいことに加え、ある程度客席を埋められなければ採算が合わず公演することを望めない。既存の方法にとらわれず、各アーティスト、各団体がインターネットやソーシャルメディアを上手に活用して活動を続けていくことが必要だと感じている。
- アーティストに限らず、今現在、プロとして活動している人々には救済処置などがあるが、今まだプロと呼ぶほどには熟練していない、今学校などで何かを学んでいる・習得しようとしている人がその選択を断念せざるを得ないケースが多くなっているのではないかということを懸念している。次の時代に、特に学問や芸術の分野に影響してくるのではないかと思う。まだプロと呼ぶ時期に到達していないながらも才能のある若者が各分野で神戸にはたくさんいるはずなので、彼らが学問や芸を磨くことを続けていけるサポートが神戸で増えることを願っている。
- 動画配信や PC の仕様については、できるだけ簡単な方法を確立し、その仕様についてホール関係者も含む人々が、苦手な人にその使用方法を教えるなどの配慮が必要だと考える。芸能を人に届けるためには、それに関係する人が少しずつ力を出し合う必要がある。

Ⅶ 参考

１．神戸市文化芸術推進ビジョン策定までの動き

平成 30 年度	11 月	神戸市文化奨励賞受賞者アンケート
令和元年度	７月～８月	神戸市ネットモニターアンケート
	８月～２月	神戸市文化芸術推進ビジョン策定懇話会 （全体会４回、分科会２回）
	１月	芸術文化団体アンケート
令和２年度	４月～	新型コロナウイルス感染症の影響に伴う文化芸術支援事業(※)
	５月	神戸市文化芸術推進ビジョン（素案）に対するパブリックコメント（意見１件）
	６月～７月	「神戸市 with コロナ対応戦略」策定に向けた意見募集

※令和２年度　新型コロナウイルス感染症の影響に伴う文化芸術支援事業

事業名		内容
うちで過ごそうアートプロジェクト		
	第２弾	塗り絵や工作、ダンスや合唱など、視聴者参加型の動画をオンラインで配信するため、神戸を拠点に活動しているアーティストから動画を募集し、地域動画チャンネル「KOBE_TV」にて動画を公開。
	第３弾	音楽や美術等など本格的なアートを自宅で鑑賞できる動画をオンラインで配信するため、神戸を拠点に活動しているアーティストから動画を募集し、地域動画チャンネル「KOBE_TV」にて動画を公開。
こうべ文化芸術活動応援事業		
	頑張るアーティストチャレンジ事業	アーティストによる「with コロナ時代」に対応した新たな企画提案事業を支援。
	頑張る施設チャレンジ事業	劇場やライブハウス等の文化施設が公演等の再開にあたって必要とされる感染症予防の取組みや、「with コロナ時代」に対応した新たな事業を支援。
芸術文化公演再開緊急支援事業（県市協調事業）		
		芸術文化公演の実施を企画・検討している利用者を支援し、施設利用を促進するため、施設利用料の 50%相当額を支援。

２．神戸市文化芸術推進ビジョン策定懇話会　委員名簿

No.	役職	委員氏名	所属 等
1		伊藤 紀美子	田嶋株式会社　代表取締役社長
2		岡田　ゆうじ	神戸市会議員、文教こども委員会　副委員長
3		岡野 亜紀子	芸術文化振興基金文化施設公演活動等専門委員会委員、演劇プロデューサー
4		片岡 達美	神戸新聞社（文化部編集委員）
5		木田 聖子	株式会社　チャイルドハート代表取締役社長
6		清水 裕之	名古屋大学名誉教授
7		新川 修平	片山工房代表、NPO 法人理事長
8	会長	椿　昇	京都芸術大学教授
9		道満 雅彦	オリバーソース株式会社　代表取締役社長
10		中山 高昌	兵庫県いけばな協会相談役、日本いけばな芸術協会常任理事
11		永吉　一郎	株式会社　神戸デジタル・ラボ代表取締役社長
12		並河 寿美	声楽家
13		福岡 壯治	神戸電子専門学校　校長
14		藤野　一夫	神戸大学大学院国際文化学研究科教授
15		間瀬 尚美	マリンバ奏者
16		毛　丹青	神戸国際大学教授、作家
17		松宮　宏	文筆家
18		壬生　潤	神戸市会議員、文教こども委員会　委員長
19		やなぎ みわ	美術作家・舞台演出家・野外劇主宰
20		横堀 ふみ	NPO 法人 DANCE BOX 役員
21		脇浜 紀子	京都産業大学教授
22		和田 彩	書道家

（50 音順、敬称略。所属等は懇話会開催当時のもの。）

３．神戸市文化芸術推進ビジョン策定懇話会　開催要綱

（趣旨）

第１条　神戸市文化芸術推進ビジョンの策定に向けて、専門的な見地及び市民の立場から幅広く意見を求めることを目的として、神戸市文化芸術推進ビジョン策定懇話会（以下「懇話会」という。）を開催する。

（委員）

第２条　懇話会に参加する委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

(1) 学識経験を有する者

(2) 文化芸術に関する専門的な知識又は経験を有する者

(3) 地元経済界を代表する者

(4) 市会議員

(5) 前４号に掲げる者のほか、市長が特に必要があると認める者

２　前項の規定により委嘱する委員の人数は、30 名以内とする。

（任期）

第３条　委員の任期は、令和２年３月 31 日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任　者の残任期間とする。

２　委員は、再任されることができる。

（会長の指名等）

第４条　市民参画推進局長は、委員の中から会長を指名する。

２　会長は、会の進行をつかさどる。

３　市民参画推進局長は、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、前項の職務を代行する者を指名する。

（懇話会の公開）

第５条　懇話会は、これを公開とする。ただし、次のいずれかに該当する場合で、市民参画推進局長が公開しないと決めたときは、この限りでない。

(1) 神戸市情報公開条例（平成 13 年神戸市条例第 29 号）第 10 条各号に該当すると認められる情報について意見交換を行う場合

(2) 懇話会を公開することにより公正かつ円滑な懇話会の進行が著しく損なわれると認められる場合

２　懇話会の傍聴については神戸市有識者会議傍聴要綱(平成 25 年３月 27 日市長決定)を適用する。

（懇話会の庶務）

第６条　懇話会の庶務は、市民参画推進局文化交流部文化交流課で行う。

（施行細目の委任）

第７条　この要綱に定めるもののほか、懇話会の開催に必要な事項は、文化交流部長が定める。

附　則（令和元年８月１日決裁）

（施行期日）

1　この要綱は、令和元年８月１日より施行する。

（要綱の失効）

2　この要綱は、令和２年３月 31 日限り、その効力を失う。

４．神戸文化創生都市宣言

神戸文化創生都市宣言

・わたしたちは、豊かな自然と美しい都市景観を持ち、歴史を刻みながら発展してきた心かよう市民のまち、神戸を誇りにします。
・わたしたちは、未曾有の震災を体験し、共有した思いやりや学んだ芸術の力を、神戸の文化として次世代に伝え、世界へと発信します。
・わたしたちは、地域や暮らしの中で世界の文化と交流し、多様な価値観を認めあいながら、常に未来に向かっていきいきと進化するまち、神戸を創ります。

〈わたしたちのまち神戸〉

六甲の山々と豊かな田園風景　茅渟(ちぬ)の海に抱かれて生まれた坂道のまち
明るい陽ざし　色とりどりの夜景に包まれる神戸
悠久の歴史と　近代の名残を留め　いつも未来に挑むまち
桜ケ丘銅鐸　源平の史跡　西国街道　旧居留地　異人館　海上都市　様々な時代の姿が見える神戸
地域に受け継がれてきた文化と　異国から来た文化が　生活の中で出会うまち
道行く人も　街並みも　さりげなくおしゃれな神戸
震災で　芸術が心を癒し　生きる希望を与えると学んだまち
まちを再生するなかで　互いに認めあい　思いやる文化を育んできた神戸

「わたしたちのまち神戸」のイメージを大切にしながら、神戸文化創生都市を宣言します。

平成 16 年 12 月４日